

平成25年度 大学の世界展開力強化事業 構想調書 ～海外との戦略的高等教育連携支援～

[基本情報]

1. 大学名	国立大学法人 北海道大学		
2. 機関番号	10101		
3. 申請者 (大学の学長)	ふりがな 氏名	やまぐち けいぞう 山 口 佳 三	所属・ 職名 総長
4. 構想責任者	ふりがな 氏名	いなば むつみ 稲 葉 睦	所属・ 職名 獣医学研究科長・獣医学部長
5. 構想名	【和文】※40文字程度 日本とタイの獣医学教育連携: アジアの健全な発展のために		
	【英文】 Collaboration of veterinary education between Japan and Thailand for sound evolution of Asia		
6. 取組学部等名	①	北海道大学 獣医学部	
	②		
	③		
	④		
	⑤		
	⑥		
	⑦		
	⑧		
	⑨		
	⑩		

7. 国内連携大学(申請大学を除く)		
	大学名	学部等名
①	酪農学園大学	獣医学群
②	東京大学	農学部
③		
④		
⑤		
⑥		
⑦		
⑧		
⑨		

(大学名:北海道大学)

8.「受入」プログラムの対象学問分野等			
	大学名	学部等名	学問分野
①	北海道大学	獣医学部	農業
②	酪農学園大学	獣医学群	農業
③	東京大学	農学部	農業
④			
⑤			
⑥			
⑦			
⑧			
⑨			
⑩			

9. 想定される「派遣」相手先			
	国名	大学名	学問分野
①	タイ	カセサート大学	農業
②			
③			
④			
⑤			
⑥			

10.本事業経費(単位:千円) ※千円未満は切り捨て						
年度(平成)	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	合計
事業規模	27,300	65,000	65,000	65,000	65,000	287,300
内 訳	補助金申請額	24,500	60,000	60,000	60,000	264,500
	大学負担額	2,800	5,000	5,000	5,000	22,800

11.本事業事務総括者部課の連絡先 ※採択結果の通知、ヒアリング等の事務連絡先となります。			
部課名		所在地	
責任者	ふりがな 氏名	所属・ 職名	
担当者	ふりがな 氏名	所属・ 職名	
	電話番号	緊急連絡先	
	E-mail(主)	E-mail(副)	

※原則として、当該機関事務局の担当部課とし、責任者は課長相当職、担当者は係長相当職とします。

E-mail(主)は、できる限り係や課などで共有できるグループメールとし、(副)にも必ず別のメールアドレスを記入してください。

(大学名:北海道大学)

構想の目的・概要及び全般的事項 【1ページ以内】

構想の目的・概要及び全般的事項の内容について、以下の①～④を記入してください。

① 構想の目的・概要等**【構想の目的及び概要】**

構想の目的：新興再興感染症（大部分が人獣共通感染症）、食の安全、動物福祉および環境保全などが先進諸国で新たな問題となり、これらの諸問題は動物の感染症についても地球規模で取り組まないと解決できないという認識が広がってきた。2009年に国際獣疫事務局 OIE が新たに打ち出した「One World One Health」というスローガンはこの様な認識に立脚している。一方、近年著しい発展を遂げているアジア各国でも上記の問題が顕在化してきている。例えば、我が国でも発生した口蹄疫、高病原性鳥インフルエンザ、狂犬病などの感染症はアジアに常在し、各国で大きな社会問題となっている。同様に、食の安全、鉱山の乱掘や過剰・違法な農薬使用による環境汚染、絶滅危惧野生動物種の保全、動物福祉などの諸問題についても、アジア各国は深い病根をかかえたままで、正確な情報を国際社会に提示することさえできないのが現状である。この背後には様々な政治的・経済的要因が存在するものの、これらは獣医学の主要な教育・研究対象であり、アジアの獣医師が責任を持って対処すべき課題である。

獣医学の教育現場でも日本の若者の内向き志向、国際社会への関心の薄さが実感されるようになった。日本の獣医系大学では博士課程学生に外国人学生の占める割合が年々増加しており、例えば、北海道大学では外国人学生の割合が40%を超えるようになったため、大学院の講義と実習のほとんどを英語で行っている。しかし、学士課程においては、課程修了後に日本語による獣医師国家試験が控えているため、国内のどの獣医系大学においても英語授業の割合は少ない。

アジアで獣医学の教育・研究レベルが最も高いのは日本、タイ、台湾および韓国であるが、一部の研究領域を除き、欧米の獣医系大学からは多くの面で後れている。さらに、日本の学生はアジアの現状を知らず、ASEANの学生は日本の先進獣医学を知らない。かかる状況から、アジア全体の獣医学をレベルアップするため、日本の3獣医系大学とASEANを牽引しているタイの2獣医系大学が、各々の教育資源を活用して協働教育を開始することを決意した。すなわち、学部の講義・実習の一部を英語化して相互の学生を受け入れることに合意した。このプログラムの実施により、日本とASEANの架け橋となり、上記のアジアが抱える諸問題にグローバルな視点で立ち向かう獣医師および獣医学研究者・教育者を養成し、アジアの健全な発展に資することが本構想の最終目的である。

構想の概要：北海道大学、東京大学および酪農学園大学の3獣医系大学がASEAN全域の獣医学をリードしているタイのカセサート大学との間で毎年8月中旬から11月中旬までの3ヶ月間、25名の学生（日本からは5年生、タイからは6年生）を相互派遣し、派遣先において臨床系科目を、UCTS換算15～23単位履修させる。本構想と並行して、北海道大学とチュラロンコン大学間で毎年5名の学生を、両大学の自己資金で相互派遣する（自主交換留学）。国際運営委員会と国内運営委員会を中核にプログラムを運営するが、申請校の北海道大学に拠点事務を設置し、プログラムリーダーと外国人教員を雇用する。また、カセサート大学にタイ拠点を置き、日本人教員1名を常駐させる。

【養成する人材像】

アジア全体を俯瞰できる獣医師、獣医学研究者・教育者を育成する。これらの人材はアジア各国の獣医系大学、研究所、行政機関、動物病院および企業において感染症制圧、環境保全および食の安全の担保等を国際的視野で主導し、安心・安全なアジアの発展に資する。

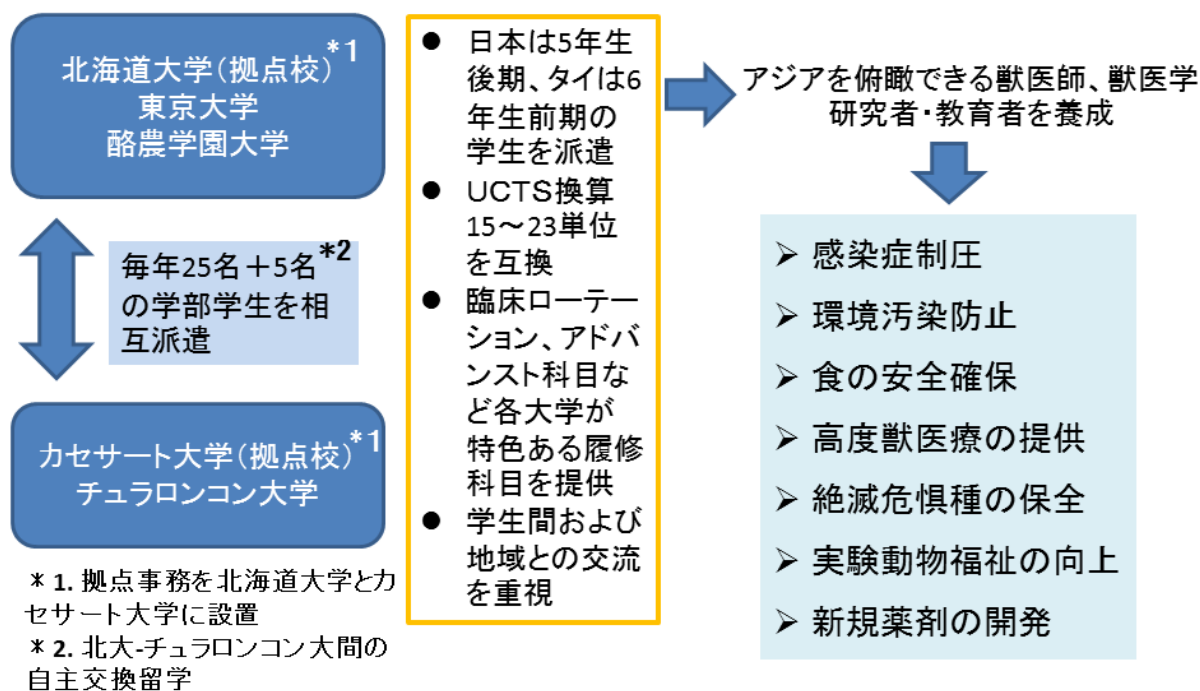
【本構想で計画している交流学生数】

	平成 25 年度		平成 26 年度		平成 27 年度		平成 28 年度		平成 29 年度	
	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣
各年度の 構想全体の 受入及び 派遣 合計人数	0人	0人	25人	25人	25人	25人	25人	25人	25人	25人

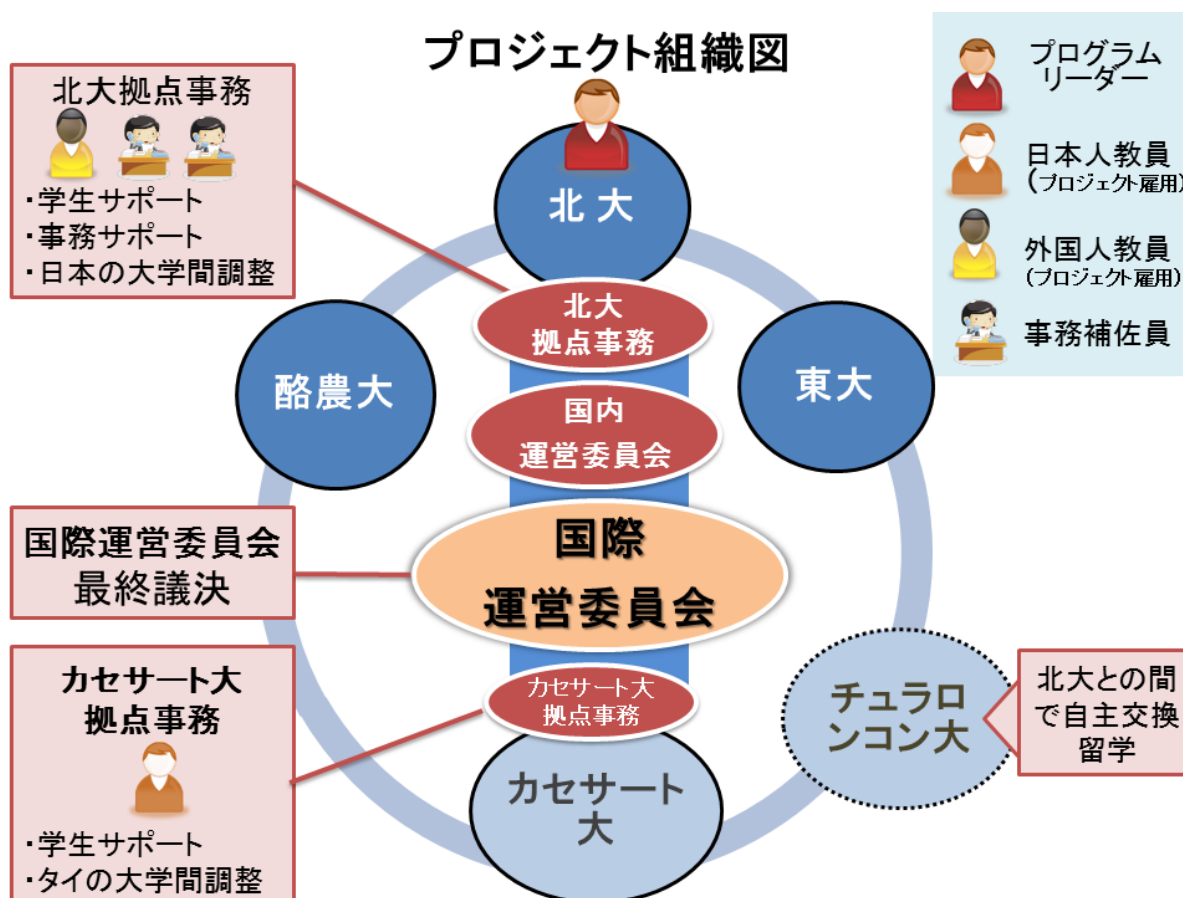
② 構想の概念図 【1ページ以内】

※国内の大学が複数連携して実施する取組の場合は、それぞれの大学の役割分担が分かる図を③に作成してください。

プロジェクトの全体像



プロジェクト組織図



(大学名：北海道大学)

③ 国内大学の連携図（国内連携大学がある場合のみ） 【1ページ以内】

※国内の大学が複数連携して実施する取組の場合は、それぞれの大学の役割分担が分かる図を作成してください。

3大学連携の特色

- ・各大学の強みと特色を活かした履修メニューの提供
- ・運営委員会と拠点事務による公平・公正なプログラム運営と成績管理
- ・野外実習、インターンシップ、日タイ学生間交流、日本文化体験の重視

北海道大学の役割

- 臨床ローテーション: 小動物臨床
- アドバンスト科目: 応用獣医学
人獣共通感染症、環境毒性
- 野外実習: 知床自然センター
- インターンシップ: 競走馬診療



特任教員2名が3大学を巡回

- ・大学間調整
- ・構想計画の点検と改善
- ・受入学生および教員との面談
- ・学生の生活サポート
- ・事前・事後講習

北大拠点事務

東京大学の役割

- 臨床ローテーション: 小動物臨床
- アドバンスト科目: 基礎獣医学
公衆衛生、食の安全
- 野外実習: 付属牧場
- インターンシップ: 企業、小動物診療

酪農学園大学の役割

- 臨床ローテーション: 大動物臨床
- アドバンスト科目: 臨床獣医学
画像診断、腫瘍外科
- 野外実習: 付属牧場
- インターンシップ: 大動物診療

④ 全般的事項 【3ページ以内】

- 当該大学の教育理念や中長期的なビジョンに基づいて明確な人材像を設定し、AIMSプログラムに参加する大学との間で、単位の相互認定や成績管理等の質の保証を伴った日本人学生の海外留学及び外国人学生の受入を促進できるような付加価値の高い魅力的なプログラムとなっているか。
- 大学の国際化に向けた中長期的なビジョンのもとに設定された戦略的な目標等において、構想の意義及び方向性が明確に位置づけられているか。
- 英語による交流プログラムとなっているか。
- 学生の派遣・受入ともにAIMSプログラムの要件を満たす意欲的なプログラムを申請大学が単独で構築できているか。

(1) 受入

【実績・準備状況】

北海道大学と東京大学はタイのカセサート大学およびチュラロンコン大学との間で深く長い教育研究交流がある。例えば、北海道大学では平成15年以降、カセサート大学から4名（うち3名は在学中）、チュラロンコン大学からは5名（うち2名は在学中）の博士課程学生を受け入れ、修了生は母校の教員あるいは国立研究所の研究者として活躍している。2011年3月には北海道大学獣医学研究科に東京大学、ソウル大学、カセサート大学およびチュラロンコン大学の代表が集まり、各大学における教育・研究の現状と問題点、将来の教育連携について話し合うとともに、UCTS (UMAP Credit Transfer System) の基幹大学であるチュラロンコン大学より UCTS に関する詳細な説明を受けた。2013年3月には北海道大学獣医学部教員3名がカセサート大学とチュラロンコン大学を訪問し、世界展開力強化事業への応募について話し合い、計画概要およびカセサート大学が ASEAN の獣医系大学のリーダーシップを取ることに合意した。さらに、2013年7月22、23日に両大学の国際共同教育担当教員各2名、酪農学園大学および東京大学の教員が北海道大学において会合を持ち、世界展開力強化事業への申請内容について協議のうえ、以下の合意に達した。

1. 双方の学生派遣時期を8月中旬から11月中旬の3ヶ月間（日本の4学期制では1.5学期）とし、平成26年度から相互派遣を開始する。
2. 日本からは5年生を派遣してタイの6年生のカリキュラム（動物別および臓器別臨床実習、野外実習/インターンシップおよびラボワーク）を履修させる。
3. タイからは6年生を派遣し、日本の5年生の獣医療実習、アドバンスト演習科目、および研究室での研究を履修させる。
4. 履修科目数および互換単位数を5~7科目、10~14単位（UCTS換算で15~23単位）とする。

【計画内容】

受け入れ対象学生と受け入れ時期：タイは2学期制で、新学期は8月中旬から始まる。獣医師国家試験は5年の課程修了者を対象に毎年7月に行われるため、国家試験が終了した6年生を新学期早々に派遣したいというタイ側からの強い希望があったため、8月中旬から日本に受け入れることとした。

履修科目、科目選択、取得単位数：タイからの派遣学生は6年生で、タイの履習課程表は臨床実習、野外実習/インターンシップが中心となっているが、卒業後は博士課程に進学する学生も多い。日本の獣医系大学では全国斉一の必修コアカリキュラムを2~4年生に課しており、5年生後期（Ⅲ、Ⅳ期）には獣医療実習（臨床ローテーションまたはポリクリ：大動物および伴侶動物各1単位）、各大学独自のアドバンスト演習（10~20科目より2科目選択、各2単位、各科目は1週間の集中講義）および所属研究室での研究（5~6年通年で6単位）に取り組んでいる。そこで、タイの学生は日本において**獣医療実習（2単位）**と**アドバンスト演習を3~5科目（6~10単位）**を選択履修する。大学院進学希望者は研究室での**ラボワーク**および**セミナーに参加する（2単位）**。また、各大学が企画する**野外実習/インターンシップ（2単位）**に参加する。これにより、10~14単位（UCTS換算で15~23単位）を取得する。これらの全ての科目は日本人学生と一緒に履修する。野外実習/インターンシップでは日本社会における獣医学の役割を学ぶとともに、日本人学生および地域住民との交流を通して相互理解を深め、アジア全体を俯瞰できる視点を身につける。また、履修単位外であるが、各大学が企画する博士課程説明会、日本で就職するためのガイダンスおよび外国人学生を対象とした就職説明会への参加を義務づける。

配属大学：カセサート大学の学生は日本の3大学が提示する履修科目のシラバスを参考に派遣先大学を選択するが、原則として、北海道大学に10名、酪農学園大学に10名、東京大学に5名が各年度配属される。チュラロンコン大学の学生5名は、自主交換留学生として本構想予算外で北海道大学に配属される。

受け入れ学生の選抜：受け入れ学生の選考に当ってはタイの両大学において成績上位にあること、日本

での履修に支障がない英語力を有することを客観的に証明する文書、および留学目的に関するレポートの提出を求める。本構想での日本側の受け入れ学生数を毎年 25 名に、自主交換留学での日本側の受け入れ学生数を 5 名に固定し、各大学における受け入れ学生数と派遣学生数は同数であることを原則とする。候補者の選定に当たっては、上記基準に従って各大学が自校学生に順位付けをし、上位者から採用する。

付加価値の高い魅力的なカリキュラムの提供：タイの 2 大学の付属動物病院では 400～600 症例/日を診療している。これは病院規模の違いのほか、日本の大学付属動物病院では二次診療（一般開業医からの紹介症例のみを診療）しているのに対し、タイでは一次診療件数が多いことにも起因する。従って、タイでは多くの症例を診察できるが、きめ細かい、**高度医療**を経験する機会が少ない。従って、タイからの留学生在が日本の臨床獣医学教育に期待するものは診断あるいは治療の難しい紹介症例に対する高度先進獣医療であり、日本の 3 大学はこのようなニーズに応える診療体制を有しており、彼らのニーズに十分応えることが出来る。また、一部の学生は日本の各大学において先進的基礎・応用獣医学研究、感染症対策、国際レベルの動物実験システム、環境および野生動物保護などについて学び、実地体験することが出来る。加えて、学生交流を目的とした様々なイベント、博士課程説明会および外国人学生を対象とした就職説明会への参加などにより、日本の獣医系大学の博士課程への進学あるいは日本企業への就職を視野に入れる。

交換単位の実質化：受講科目の成績は受け入れ大学の担当教員が一次評価し、コメントとともに国内運営委員会に報告する。国内運営委員会はその結果を審議（二次評価）し、最終的には国際運営委員会での審議（三次評価）によって成績を認定する。これらの結果を北海道大学拠点事務で一括管理し、タイの 2 大学に報告する。タイの 2 大学では教授会審議を経て派遣学生の成績を確定する。

北海道大学拠点に常駐するプログラムリーダーと外国人教員は、受け入れ期間中に日本の 3 大学を頻繁に巡回し、講義・実習の実施状況の点検と派遣学生および担当教員との面談を行う。これらの手続きにより、成績評価の透明性と客観性を担保し、単位の実質化を厳守する。

シラバスの活用：シラバスを毎年更新し、冊子体を 5 大学の当該学年全学生に配布するとともに、北海道大学拠点のプロジェクトホームページに最新版を公開する。また、教員の教育研究分野、教育研究業績およびプロフィールをプロジェクトホームページに公開し、タイの学生が受け入れ大学・研究室を選定する際の参考に供する。

サポート体制：カセサート大学に常駐する日本人教員は日本の受け入れ大学の特色と教授科目の詳細および日本の大学の希望をタイ側に説明するほか、タイの 2 大学からの派遣学生数の調整と派遣学生への事前・事後説明会の開催を担当する。北海道大学に常駐する外国人教員は拠点事務の一員として、日本の受け入れ大学における履修科目内容と単位数の点検調査、成績の管理、受け入れ大学における野外実習/インターンシップの実行、企業説明会および教員への事前・事後説明会の開催を支援または主担する。また、タイからの学生受け入れ期間中は 3 大学を巡回して、タイからの派遣学生の生活をサポートする。

（2）派遣

【実績・準備状況】

従来の獣医系大学間の交流は教員および大学院生の研究のための往来がほとんどで、**東京大学とカセサート大学間の学部学生交流（日本学生支援機構の財政支援）、およびカセサート大学が行っている短期研修プログラム（ASEAN Veterinary Volunteer Project）**を除き、学部学生をタイの獣医系大学へ派遣する機会はなかった。北海道大学と東京大学にはカセサート大学およびチュラロンコン大学を含むタイ出身の博士課程学生が多数在籍しているため、学部学生はタイの文化と習慣、獣医師の職務内容、獣医系大学における教育研究内容に興味を持っており、本構想が実現すれば、多数の応募者があると思われる。

酪農学園大学の学生定員は 1 学年 120 人である。同大学はこれまで、**米国のオハイオ州立大学獣医学部を中心に学部学生を派遣してきているが、原則として派遣費用は学生負担であること、派遣先が米国の先進獣医系大学および台湾などに限られていたことから、本構想でタイへの派遣学生を公募すれば多数の応募者があると予想される。**

【計画内容】

派遣対象学生と派遣時期：日本の獣医系大学の学生は 6 年制課程修了後に国家試験を控えており、さらに 6 年生には卒業論文の完成と口頭発表が課せられているため、**6 年生の派遣は困難**である。一方、5 年生後期のカリキュラムはタイの 6 年生のカリキュラムに近似しており、単位互換が容易であることから、5 年後期（3, 4 学期）にタイへ派遣することとした。派遣時期はタイ側の新学期が始まり、日本では夏休み中の 8 月中旬から 11 月中旬とし、タイからの学生派遣時期と同一にした。

履修科目、科目選択、取得単位数：タイの獣医系大学も6年一貫教育を行っており、4年間で基礎・応用獣医学教育を終了し、6年生は動物別および臓器別臨床実習（11～15科目、各1～3単位）、野外実習/インターンシップ（1～2単位）および研究者養成のためのラボワーク（2単位）を履修させている。日本人学生は動物別および臓器別臨床実習科目の中から3～5科目（6～10単位）、野外実習/インターンシップ（1～2単位）、ラボワーク（2単位）をタイ人学生と一緒に履修し、合計10～14単位（UCTS換算で15～23単位）を取得する。野外実習/インターンシップではタイ社会における獣医学の役割を学ぶとともに、タイ人学生および地域住民との交流を通して相互理解を深め、アジア全体を俯瞰できる視点を身につける。また、履修単位外であるが、各大学が企画する博士課程説明会、タイで就職するためのガイダンスおよび日本人学生を対象とした就職説明会への参加を義務づける。

配属大学：北海道大学および酪農学園大学の学生各10名と東京大学の学生5名はカセサート大学に配属される。北海道大学の学生5名は、自主交換留学生として、本構想予算外で、チュラロンコン大学に留学することが出来る。

受け入れ学生の選抜：日本の獣医系大学では4年生までの基礎・応用科目と臨床導入教育の達成度を測るために全国統一の共用試験を平成26年度から試行する。これは4年間の教育課程での達成度を測るための中間評価で、この試験に合格した学生のみが5年生以降の臨床を中心とした教育課程に参加できる。本プログラムで派遣を希望する学生には留学目的に関するレポートのほか、（1）共用試験の成績が各大学で上位2/3以内にあること、（2）TOEFL ITPに換算して450点以上の英語力を有すること、（3）派遣希望国の地理、歴史、文化、習慣、言語などに関して外国人教員が行う試験に合格することを必須条件とし、応募者多数の場合は各大学の推薦順に採用する。各大学からの派遣学生には、留学目的に関するレポートの内容、派遣希望大学（北海道大学の学生のみ）、および上記試験の成績の提出を求め、運営委員会において最終決定する。

付加価値の高い魅力的なカリキュラムの提供：日本の獣医系大学の付属動物病院では、先に記したとおり、一次診療の機会がほとんど無く、一般開業医で診療が終わる典型症例を経験する機会が少ない。また、日本の養鶏および養豚産業は大規模化と隔離化 isolation が進んでおり、日本の獣医系大学では鶏と豚の臨床経験を積む機会がほとんど無いが、タイではそれが可能であり、タイの2大学はそれらの農場と専門教育課程を有している。また、タイでは野生動物の診療件数が多く、日本人学生にとって大きな魅力である。加えて、日本人学生は各研究室においてタイの獣医学研究の最前線に触れるほか、タイ独特の野生動物管理学、薬草学、魚病学および魚類繁殖学を学ぶことが出来る。日本からの派遣学生には学生交流を目的とした様々なイベント、博士課程説明会および外国人学生を対象とした就職説明会への参加を義務づけ、タイの獣医系大学の博士課程への進学あるいはタイ企業への就職の可能性を視野に入れさせる。

交換単位の実質化：受講科目の成績は受け入れ大学の担当教員が一次評価し、コメントとともに国内運営委員会に報告する。国内運営委員会はその結果を審議（二次評価）し、最終的には国際運営委員会での審議（三次評価）によって成績を認定する。これらの結果を北海道大学拠点事務で一括管理し、日本の3大学に報告する。日本の大学では教授会審議を経て派遣学生の成績を確定する。

カセサート大学拠点に常駐する日本人教員は受け入れ期間中にタイの2大学を巡回し、講義・実習の実施状況の点検と派遣学生および担当教員との面談を行う。これらの手続きにより、成績評価の透明性と客観性を担保し、単位の実質化を厳守する。

シラバスの活用：シラバスを毎年更新し、冊子体を5大学の当該学年全学生に配布するとともに、北海道大学拠点のプロジェクトホームページに最新版を公開する。また、日・タイ双方の教員の教育研究分野、教育研究業績およびプロフィールをプロジェクトホームページに公開し、日本人学生が受け入れ研究室を選定する際の参考に供する。

サポート体制：北海道大学に常駐する外国人教員はタイの受け入れ大学の特色と教授科目の詳細およびタイの大学側の希望を日本側に説明するほか、日本の3大学からの派遣学生への事前・事後説明会を開催する。カセサートに常駐する日本人教員はタイの受け入れ大学における履修科目内容と単位数の点検調査、成績の管理、受け入れ大学における野外実習/インターンシップの実行、企業説明会および教員への事前・事後説明会の開催を支援または主担する。また、日本からの学生受け入れ期間中は2大学を巡回して、派遣学生の生活をサポートする。

質保証を伴った付加価値の高い魅力的な教育プログラムの提供 【①～③合わせて3ページ以内】

交流プログラムの質の保証や付加価値を高めるための取組内容について、実績・準備状況を踏まえて、計画内容を具体的に記入してください。

① 交流プログラムの質の保証について

- 透明性、客観性の高い厳格な成績管理（コースワークを重視したカリキュラムの構成、GPAの導入や教員間の相互チェックなど）、学生が履修可能な上限単位数及び下限単位数の設定、明確なシラバスの活用等による学修課程と出口管理の厳格化に努め、単位の実質化を重視しているか。
- 交流プログラムを実施するにあたり、単位の相互認定（例えば、UMAPのUCTSの活用）や成績管理、学位授与に至るプロセスが明確になっているか。
- 国際公募による外国人教員の採用や海外大学での教育経験又は国内大学で英語等による教育経験を有する日本人教員の配置、FD等による教員の資質向上など、質の高い教育が提供されるよう交流するプログラムの内容に応じた教育体制の充実が図られているか。

(1) 受入**【実績・準備状況】**

東京大学を除く本構想参加全大学がGPAを実施している。2011年3月、北海道大学に東京大学、カセサート大学およびチュラロンコン大学の代表が集まって**UCTSに関する勉強会**を行った。日本の3大学では博士課程の講義実習の一部あるいは全てが英語で行われているが、学部教育では国家試験を控えているため、英語授業の割合はどの大学でも数パーセントである。しかし、本構想に参加する日本の3大学は、地球規模で急速に進行する国際化の中で、日本の獣医系大学における学部教育も国際基準に合致するものでなければならないという共通認識に立って、英語授業を増やすこと、海外の大学との教育連携を推進することを決意した。本構想の基本理念、計画概要、派遣対象学生、相互派遣時期、提供カリキュラム、単位互換、および相互授業料不徴収については、**本計画調書提出直前の7月22、23日に5大学の代表が北海道大学に集まって合意した。**

【計画内容】**プロジェクト推進組織**

- ・拠点事務を北海道大学獣医学部に設置し、カセサート大学にタイ拠点を置く。
- ・北海道大学拠点に**プログラムリーダー**（北海道大学特任教授）並びに**外国人教員**（北海道大学特任教員）、各1名、および**英語が堪能な事務補佐員**2名（会計および教務担当）を雇用し、プロジェクト運営にあたる。
- ・**外国人教員は国際公募**するが、タイの2大学からの推薦と国際運営委員会での賛否投票で2/3以上の賛成票を得ることを条件とする。
- ・カセサート大学に**日本人教員**1名（北海道大学特任教員：公募により選考）が常駐し、タイでのプロジェクト運営を支援する。
- ・プロジェクト運営に係る**重要事項は国際運営委員会で最終決定**する。本委員会委員は参加大学の代表各1名、プログラムリーダーおよび上記の外国人および日本人教員とし、プログラムリーダーが本委員会を招集し、議長を務める。本委員会を原則として毎年2回、日本あるいはタイで開催する。
- ・**国内運営委員会**を設置し、日本国内でのプロジェクト運営全般について審議する。委員は日本の3大学のプロジェクト担当教員（原則として学部の国際交流委員長）と部局長、合計6名、プログラムリーダー、および外国人教員とする。本委員会はプログラムリーダーが必要に応じて随時招集し、議長を務める

単位の相互認定：日本とタイの獣医学部教育はともに6年制であるが、日本の獣医師国家試験は6年の課程修了後、タイの獣医師国家試験は5年の課程修了後に行われるため、日本からは5年生を、タイからは6年生を、毎年8月中旬から11月中旬の3ヶ月間にわたって相互派遣する。日本の5年生とタイの6年生のカリキュラムには類似点が多く、①臨床ローテーションあるいはポリクリと呼ばれる**臨床グループ実習**、②課題研究、卒業論文あるいはラボワークと呼ばれる所属/選択研究室での**研究体験**、③所属/選択研究室での**セミナー参加**、④**アドバンスト科目**と呼ばれる各大学独自のオムニバス形式演習、⑤**野外実習あるいはインターンシップ**などが共通して行われている。そこで、タイの学生は日本において獣医療実習（2単位）とアドバンスト演習を3～5科目（6～10単位）を選択履修する。大学院進学希望者は研究室でのラボワークおよびセミナーに参加する（2単位）。また、各大学が企画する野外実習/インターンシップ（2単位）に参加する。これにより、10～14単位（UCTS換算で15～23単位）を取得し、母大学での取得単位として認定する（単位互換）。これらの全ての科目は日本人学生と一緒に履修する。

単位の実質化：日本の大学の各科目責任者は提供科目の教育内容、受講条件（取得単位および予習内容）、

単位認定基準および成績評価基準を拠点事務を介して、タイの大学に派遣学生公募前に周知するとともに、北海道大学拠点プロジェクトホームページに公開する。成績評価では GPA 制度を踏襲し、A (Excellent: 10%)、B (Good: 30%)、C (Fair: 40%)、D (Pass: 20%)、E(Flunk)の 5 段階相対評価を行う。

教員のFD：プログラムリーダーと外国人教員は国内 3 大学を訪問し、科目担当教員へのFD、プロジェクトの進行状況の報告、および学部学生への説明会を開催する。また、各大学における野外実習、就職説明会およびインターンシップ協力機関への協力依頼とプロジェクト概要の説明を行う。

(2) 派遣

【実績・準備状況】

本構想参加全大学間で UCTS に関する情報が共有されている。タイの 2 獣医系大学ではフランスのアルフォート大学、オランダのユトレヒト大学、米国のアイオワ州立大学、マレーシアのプトラ・マレーシア大学との間で学生の相互派遣と単位互換をすでに行っており、本事業の推進に問題はない。また、タイの 2 大学はタイの首都バンコックにメインキャンパスを構え、歴史的には同じ大学であったことから、両大学間の教員と学生の交流は活発である。

【計画内容】

単位の相互認定：タイの獣医系大学でも 4 年間で基礎・応用獣医学教育を終了し、6 年生は動物別および臓器別臨床実習 (11~15 科目、各 1~3 単位)、野外実習/インターンシップ (1~2 単位) および研究者養成のためのラボワーク (2 単位) を履修させている。タイに派遣された日本人学生は動物別および臓器別臨床実習科目の中から 3~5 科目 (6~10 単位)、野外実習/インターンシップ (1~2 単位)、ラボワーク (2 単位) をタイ人学生と一緒に履修し、合計 10~14 単位 (UCTS 換算で 15~23 単位) を取得する。母大学ではこれを取得単位として認定する (単位互換)。これらの全ての科目はタイ人学生と一緒に履修する。この取得単位数では 6 年生進級要件に満たない日本の大学では、派遣後に補講を行って 6 年生への進級要件を満たす。

単位の実質化：タイの大学の各科目責任者は提供科目の教育内容、受講条件 (取得単位および予習内容)、単位認定基準および成績評価基準を拠点事務を介して、派遣応募前の日本人学生に周知するとともに、拠点ホームページに公開する。成績評価では GPA 制度を踏襲し、A (秀 Excellent: 10%)、B (優 Good: 30%)、C (良 Fair: 40%)、D (可 Pass: 20%)、E (不可 Flunk) の 5 段階相対評価を行う。

タイ常駐教員の採用と職務：カセサート大学に常駐する日本人教員は日本国内での一般公募によって選任されるが、獣医学の教育研究経験、ASEAN での活動経験および獣医学の国際化への熱意を参考に国内運営委員会で選任 (投票で 3 分の 2 以上の同意が得ること) され、国際運営委員会の承認を得て任命する。日本人教員はカセサート大学に常駐し、派遣学生のサポートやタイの 2 大学との連絡調整など、プロジェクト運営に必要な海外活動の全般を担当する。

教員へのFD：プログラムリーダーと日本人教員はタイの 2 大学をしばしば訪問し、科目担当教員へのFD、プロジェクトの進行状況の報告、および学部学生への説明会を開催する。また、タイの両各大学における野外実習、就職説明会およびインターンシップ協力機関への協力依頼とプロジェクト概要の説明を行う。

②相手大学 (相手国) のニーズを踏まえた大学間交流の展開

○ 相手大学における単位制度 (授業時間を含めた学習量や単位の換算方法等)、学生の履修順序、単位の相互認定の手続、アカデミックカレンダーの相違等について留意し、交流するプログラムの内容に応じたサポートの実施等により、学生の履修に支障がないよう配慮されているか。

○ 各国の人材育成ニーズを踏まえた教育の提供を行っているか。

【実績・準備状況】

平成 25 年 7 月 22、23 日の本構想参加全大学の会合において、本プロジェクトの概要、派遣対象学生、相互派遣時期、提供カリキュラム、単位互換、および相互授業料不徴収について合意し、単位互換の詳細な読み替え表などのより細部については、本申請採択後に作成作業を再開することになった。

【計画内容】

タイにおける単位制度

タイの 2 大学の 6 年生はすでに獣医師資格を有しており、各診療科に分かれて動物別および臓器別の臨床診療、各大学がタイの各地に保有する診療ステーションでの野外実習、協力企業でのインターンシップ、および各研究室でのラボワークを行い、1 年間で 36 単位 (I 学期で 16 単位=UCTS 30 単位) を取得する。本構想では、タイの 6 年生学生は日本で同様な科目を 3 ヶ月間履修し、UCTS 15~23 単位を取得する。これらの留学生は 11 月中旬に帰国後、翌年 1 月末の II 学期開始時までに残りの UCTS 7~15 単位を取得する。

(大学名：北海道大学)

単位の相互認定手続き

プロジェクトの採択が決定すれば直ちに日本とタイの大学間で単位の読み替え表を作成し、単位の相互認定手続きを終える。要点は、3ヶ月の留学期間中に適切な単位数を取得して卒業に支障を生じないこと、留学期間中は臨床研修だけではなく、日本の獣医学研究、獣医師の使命、日本人・日本文化を時間的余裕を持って学べること、タイでの履修内容と同等あるいはそれ以上を学ぶことが出来るよう配慮することである。

タイの人材養成ニーズ

感染症制圧、食の安全性の担保、環境および野生動物の保全、高度獣医療の提供、ワクチンや医薬品の新規開発などがタイの獣医系大学の卒業生に求められており、獣医学の教育と研究レベルの向上がタイの獣医系大学にとって最も大きな課題である。タイの2大学では欧米あるいは日本に留学し、学位取得した教員を優先採用して教育研究レベルの向上を図ってきたが、学部学生が海外研修出来る機会は少ない。本プロジェクトでは同じアジアの日本の獣医学の臨床診療および研究を体験して勉学意欲を高め、ASEAN についてはアジア全体の獣医学のレベルアップを視野に入れたタイ人獣医師を育成したい。また、日本の獣医系大学の博士課程へ進学あるいは日本企業へ就職する学生が増えることも期待している。

タイからの受け入れ学生に対するサポート体制

- ・北海道大学の博士課程には ASEAN の大学出身者が在籍しており、彼らをチューターとして採用し、北海道大学と酪農学園大学に在籍するタイ人留学生の勉学をサポートする。同様に、東京大学にも ASEAN の大学出身者が多数在籍しており、彼らをチューターとして採用する。
- ・日本の3大学のプロジェクト担当者、チューター、北海道大学に駐在する外国人教員およびプログラムリーダーが密接な連絡を取りつつ、タイからの留学生の修学および生活をサポートする。
- ・北海道大学が保有する留学生用宿泊施設、研修施設あるいは民間の契約宿泊施設を留学生に充てる。
- ・派遣期間中、拠点事務からタイの大学に派遣留学生の修学状況を定期的に報告する。
- ・実習およびインターンシップ期間中の万一の事故に備え、**留学生全員を旅行保険に加入させる。**

様式2

③付加価値の高い魅力的な教育プログラムの提供

- 受入プログラムについて、基礎・専門科目などの授業科目に加え、産学連携による現場での就業体験（インターンシップ）、フィールドトリップなどを含む付加価値の高いプログラムとなっているか。
- 受け入れた学生と地域住民との交流、文化、芸術の体験など国際体験を通じ、学生の視野や可能性を広げるプログラムとなっているか。

【実績・準備状況】

日本の獣医系大学では5年生のカリキュラムに野外実習やインターンシップが組み込まれており、タイからの留学生は日本の5年生と一緒に野外実習やインターンシップに参加できる。

北海道大学はスコットランドのエジンバラ大学と毎年10名の学生の相互訪問を行っており、エジンバラ大学の学生は北海道大学の施設見学、研究室訪問、学生間交流および知床の野生動物生態調査に参加している。酪農学園大学では台湾の中興大学、嘉義大学、米国のフィンドレー大学およびオハイオ州立大学からの研修生を毎年受け入れ、主として臨床実習の研修をさせている。東京大学はカセサート大学およびエジンバラ大学の学部学生の研修を受け入れてきている。

【計画内容】

日本の大学が実施する演習科目は野外実習やインターンシップを含んでおり、3大学でその内容が異なるため、**タイからの留学生に多様なメニューを提供**する事が出来る。演習場所は大学付属農場あるいは農業共済組合家畜診療所での大動物診療実習、野生動物に関する野外調査、家畜保健所での実習、食肉検査場見学、一般開業獣医科医院での小動物臨床実習、日本中央競馬会所有施設での臨床実習、畜産農家訪問、動物園実習、中央および地方公共団体での獣医行政視察、製薬・食品企業でのインターンシップなどである。これらの野外実習/インターンシップによって日本の獣医学の現状とその役割を理解するとともに、現場の獣医師、農家、地域住民と交流する機会を設ける。また、近隣の他獣医系大学とその関連施設を見学するための国内旅行を設定し、様々な角度から「日本」を体験する機会を設ける。

タイの2大学は獣医学分野では ASEAN をリードする大学であり、日本の3大学とタイの2大学の教育連携はアジア全体の獣医系大学の教育連携推進に弾みを付ける。日本の3大学はアジアのその他の有力大学（ソウル大学、台湾大学、プトラ・マレーシア大学など）とも交流が深いので、**本構想による教育連携をアジアの有力大学間に敷衍することが可能**であり、そのように発展してゆくであろう。

（大学名：北海道大学）

外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備 【①～③合わせて2ページ以内】

交流プログラムの実施に伴う受け入れる外国人学生及び派遣する日本人学生に対する生活や学修及び就職への支援やそのための環境整備について、①～③の内容を実績・準備状況を踏まえて、計画内容を具体的に記入してください。

① 外国人学生の受入のための環境整備

- 外国人学生の在籍管理のための適切な体制が整備されているか。
- 受け入れた外国人学生が学業に専念できるよう、履修指導、教育支援員・TA等の配置、学内外での諸手続き支援、カウンセリング、宿舍、学内各種資料の翻訳等のサポート体制の充実が図られているか。
- 単位認定可能な科目、履修体系・順序、単位の相互認定の手続、アカデミックカレンダーの相違等について、学生の履修に支障がないよう十分な情報提供を行う体制がとられているか。

【実績・準備状況】

北海道大学では、全学的な国際交流推進のための組織として平成 22 年度に**国際本部**を設置した。同本部では、海外の大学・国際機関との交流促進、国際共同教育の促進、留学生教育、留学生・外国人研究者の生活サポート、学内文書の日・英バイリンガル化、海外広報など、大学としての国際展開に必要な機能を同本部に集約している。本プログラムにおいては、国際本部が有するリソース、ネットワークを最大限に活用し、実施部局の獣医学部と緊密な連携の下、本プログラムを実施することとしており、本プログラムにおける外国人学生の受入は勿論のこと、本学学生の派遣、プログラム運営において必要となる環境の整備は十分に整っている。**東京大学は国際部、酪農学園大学は Extension Center** が北海道大学の国際本部と同様な業務を担当しており、本事業の推進をバックアップする体制は整っている。

【計画内容】**学生の在籍管理と成績管理**

派遣先大学での学生登録は各大学のプログラム担当教員（原則として学部の国際交流委員長）がおこない、北海道大学拠点事務がそれをサポートする。

本プログラムに参加する教員と学生の名簿と成績を北海道大学拠点事務で一括管理し、派遣修了後に国内運営委員会、ついで国際運営委員会でご担当教員からの評価書の適否を審議する。その結果を日本およびタイの各大学へ報告し、各大学の教授会での審議を経て単位取得および成績を確定する。

外国人学生へのサポート体制

履修科目のシラバスをすべて英語で作成し、冊子体として構想参加大学の派遣対象学年学生に配付する。また、それらの履修情報とともに、プロジェクト参加教員の教育研究実績とプロフィールを北海道大学拠点のプロジェクトホームページに公開する。

事前・事後研修をカセサート大学駐在の日本人教員がタイの 2 大学で行う。

履修指導、教育支援、カウンセリング等の学生支援を日本の 3 大学のプロジェクト担当教員、北海道大学駐在の外国人教員およびプログラムリーダーが担当する。プログラムリーダーと外国人教員は日本の 3 大学を巡回し、各大学の受け入れ状況、修学の進捗状況を点検するほか、タイ人学生およびチューター全員と面談し、プロジェクトに関する意見を聴取する。プロジェクト計画の改善あるいは変更が必要と判断された場合には、国内運営委員会および国際運営委員会に諮ったうえで改善あるいは変更を行うが、**迅速な対応を必要とする場合にはプログラムリーダーの判断で変更・改善**し、国内および国際運営委員会の事後承認を得る。

リスク管理への配慮

受け入れ学生全員に旅行保険への加入を義務づけるほか、各大学のチューター、プロジェクト担当教員、および北海道大学拠点スタッフの緊密な連携によって、緊急時に対応する。

② 日本人学生の派遣のための環境整備

- 留学中の日本人学生が学業に専念できるとともに、帰国後の学業生活や就職活動等にも支障のないよう、留学中の日本人学生への必要な情報の提供やインターネット等を通じた相談体制の構築等がなされているか。
- 日本人学生に対して、海外への派遣前から帰国後にわたり、履修面・学習面・生活面にわたるサポート（履修指導、交流に関する情報の提供、相談サービスの実施等）が推進されているか。
- 単位認定可能な科目、履修体系・順序、単位の相互認定の手続、アカデミックカレンダーの相違等について、学生の履修に支障がないよう十分な情報提供を行う体制がとられているか。

【実績・準備状況】

カセサート大学とチュラロンコン大学は外国人学生用の大きな宿泊施設を有しており、欧米とアジアの大学との交換留学に活用している。また、**両大学の教員のほとんどが高い英会話能力を有し、外国人学生の扱いにも慣れている。**

【計画内容】

日本の単位制度

日本の獣医学部教育は齊一化が進んでおり、3大学とも同様なカリキュラムを組んでいる。5年生のカリキュラムでは臨床系実習（臨床診療、ポリクリ、野外実習）が中心であるが、卒業研究および各所属研究室でのセミナー参加・発表の単位数が多く（5、6年通年で合計10単位）、**研究者育成にも重きを置いている**点が諸外国の獣医学教育カリキュラムに比べて特徴となっている。従って、5年生の後期（Ⅲ、Ⅳ期）に取得すべき最低単位数は、通年科目を除けばアドバンスト科目と臨床系実習を合わせて10単位前後であり、3ヶ月間のタイ留学によってUCTS 15～23単位を取得できれば**6年生への進級に問題はない。**

留学中の日本人学生への支援

事前・事後研修を北海道大学駐在の外国人教員が日本の3大学を巡回して行う。

履修指導、教育支援、カウンセリング等の学生支援をタイの両大学のチューター。プロジェクト担当教員、カセサート大学駐在日本人教員が担当する。プログラムリーダーとタイ駐在日本人教員は派遣期間中、タイの各受け入れ大学を巡回し、各大学の受け入れ状況、修学の進捗状況を査察するほか、日本人学生およびチューター全員と面談し、プロジェクトに関する意見を聴取する。プロジェクト計画の改善あるいは変更が必要と判断された場合には、プログラムリーダーがタイ側と協議したうえで直ちに改善し、国内運営委員会および国際運営委員会の承認を得るか、あるいは両運営委員会の議を経て変更・改善する。

リスク管理への配慮

カセサート大学とチュラロンコン大学は地理的に近く、リスク管理が容易である。**派遣学生については通常の学生保険に加えて、派遣時には旅行保険への加入を義務づける**ほか、各大学のチューター、プロジェクト担当教員、およびカセサート大学駐在日本人教員の緊密な連携によって、緊急時に対応する。

③ 関係大学間の連絡体制の整備

- 外国人学生及び日本人学生へのサポートが円滑及び適切になされるよう、関係大学間の十分な連絡・情報共有体制が整備されているか。
- 緊急時、災害時の対応のための留学中の日本人学生や受け入れた外国人学生をサポートするリスク管理への配慮が十分になされているか。
- 大学間交流の発展に向け、参加学生のOB会の立ち上げ等、卒業・修了後の継続的サポート体制の構築等が図られているか。

【実績・準備状況】

近年、ASEANの獣医系大学では大学間の教育連携が進んでおり、その中心はタイのカセサート大学である。一方、北海道大学と東京大学はASEANから多数の博士課程学生を受け入れているほか、教員間の教育・研究交流が活発である。さらに、東京大学はカセサート大学との間で学部学生の交換留学を行ってきた。また、酪農学園大学は台湾および米国からの学部学生の研修を受け入れている。**本プログラムへの申請を目標に、タイの2大学とは過去3回にわたって協議**してきており、プロジェクト採択後直ちに具体的作業を開始できる状況にある。

【計画内容】

・本プロジェクトでは**国際運営委員会を最高議決機関と位置づけ**、全ての案件は本委員会で最終決定あるいは承認するが、同時に、本委員会で日本とタイ間の情報交換および調整を行い、プロジェクトの円滑な運営に努める。

・国内運営委員会では日本の3大学間の連絡と調整を行う。

・プログラムリーダー、日本人および外国人プロジェクト雇用教員は出来るだけ頻りに各大学を訪問し、各大学のプロジェクト担当教員、プロジェクト参加教員、派遣および受け入れ学生、およびチューターと面談して、様々なリスクからの未然回避とそれへの適切な対応にあたる。緊急・災害発生時には北海道大学拠点に情報を集め、プログラムリーダーの指示のもと、プロジェクト雇用教員、拠点事務員、プロジェクト担当教員が現場に急行し、受け入れ大学および派遣大学との緊密な連携のもとで対応する。

・派遣学生全員に感想文の提出を依頼し、北海道大学拠点プロジェクトホームページ上に掲載する。また、派遣学生からの投稿を随時掲載し、学生間の交流が派遣後も継続するよう配慮し、OB会結成へと誘導する。

達成目標 【①～③はそれぞれ1ページ以内、④、⑤(1)はそれぞれ国内連携大学数に応じたページ数、⑤(2)、⑥はそれぞれ1ページ以内】

本構想を実施することによって達成しようとする目標について、下記の点に留意し、①～⑤に具体的に記入してください。

① 養成しようとするグローバル人材像について

- 国民にとって分かりやすい具体的な目標が設定されているか。
- 本プログラムにおいて養成しようとするグローバル人材像が明確に設定されているか。
- アウトプットだけでなくアウトカムに関する具体的な目標が設定されているか。

(i) 構想全体の達成目標（事業開始～平成29年度まで）

国民にとって分かり易い目標

感染症の制圧、食の安全、環境保全などは一国のみで堅持できないことは牛海綿状脳症、新型インフルエンザ、および腸管出血性大腸菌 O-104 などの例で明らかであり、**わが国民の安心・安全はアジアあるいは世界というより大きなフレームで捉えなければならない**。本プロジェクトの最終目標はアジア各国で防疫、公衆衛生、動物診療などに従事している獣医師および獣医学研究者がグローバルな意識と高度な知識・技術でこれらの諸問題に対処し、発生国内で速やかに解決できる基盤を整備することであり、もってアジア全域の安心・安全を守り、アジアの健全な発展を担保することにある。

明確な人材像

本プロジェクトではタイあるいは日本の獣医学、文化および社会を学習しかつ体験することによって、(1) アジア全体を俯瞰できる**グローバルな発想・思考力と英語でのコミュニケーション能力**、(2) 獣医学の専門家として**国際的に通用する知識と技能を有する獣医師、獣医学教育者および研究者の養成**を目指す。

アウトカムは明確か

我が国はタイから多くの食料を輸入しており、我が国の食の安全の担保には両者の獣医師間の密接な連携が必須である。また、タイの獣医師および獣医系大学は ASEAN の先進国として、ASEAN 諸国が抱える感染症対策、食の安全、環境汚染、絶滅危惧野生動物種の保全などの諸課題の解決にリーダーシップを発揮することが期待されている。本構想では日・タイ間の獣医学連携の強化を目指すほか、アジアを俯瞰し、自らの手でアジアが抱える諸課題を解決出来る人材を日・タイの教育連携によって養成するものである。従って、本プロジェクトの連携教育はアジアの他大学を巻き込んだより大規模な教育連携へと拡大し、**アジア全域の獣医師のレベルアップに結実することになる**。

(ii) 中間評価までの達成目標（事業開始～平成26年度まで）

交付決定が平成25年11月で、8月中旬に学生を相互派遣することから、平成25年度には単位互換のための読み替え表の作成、カリキュラムとシラバスの完成と冊子体作成、派遣対象学年の学生への冊子体配付、全大学での学生を対象とした事前講習会と教員を対象としたFDの開催、北海道大学拠点ホームページの立ち上げ、プロジェクト雇用教員および事務補佐員の選任、国内および国際運営委員会の形成と委員会開催などを行う。学生への事前講習会では、派遣対象学年から**成績優秀で英語能力の高い学生を各大学から1名を選んで同行させ**、学生間の交流を開始させる。これにより、本構想の目的と趣旨が学生間に浸透し、日・タイの学生間で双方の国と大学に対する興味と親近感が醸成され、派遣希望者が増加すると見込んでいる。

26年8月中旬から11月中旬の3ヶ月間にわたって交換留学を行い、中間評価までに連携教育の1期生が誕生する。派遣終了後に派遣学生、チューターおよび関係教員に**アンケート調査**を行い、本プロジェクトが日・タイの架け橋となる人材、アジアを俯瞰できる人材、アジアの健全な発展に寄与出来る人材を養成するプログラムになっているかを確認し、改善すべき事項あるいは追加すべき事項が指摘されれば、国際運営委員会の議を経て、機動的に対応する。

② 本構想における外国人学生の受入数の目標					
○ 本構想において外国人学生の受入数に関する目標が設定されているか。					
現状（平成25年5月1日現在）※1			1 人		
(i) 外国人学生数の達成目標					
	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
学士課程	0人	25人	25人	25人	25人
構想全体の達成目標（事業開始～平成29年度まで）				100人（延べ数）	
中間評価までの達成目標（事業開始～平成26年度まで）				25人（延べ数）	
(ii) 目標を設定した考え方及び達成までのプロセス（構想全体、中間評価までの双方について）					
北海道大学は10名を受け入れる。					
<ul style="list-style-type: none"> カセサート大学の学生定員は120名/学年なので、単位互換が成立し、カリキュラムを提示し、事前説明を充実すれば、多数の応募者があると思われる。北海道大学獣医学部では平成25年4月に動物病院を新築し、臨床教育を充実させていること、診療スペースが従来の約3倍に、診療スタッフ数が従来（平成17年）の約2倍、診療頭数が約5倍以上になった。知床半島における野生動物実習と酪農地帯道東でのインターンシップのため、標津町と獣医学部が学術交流協定を締結して20名程度の宿泊施設を同町に確保した。以上の状況から、標記目標の達成は容易である。なお、北海道大学への派遣希望者数が達成目標を大幅に超える場合には、受け入れ学生数を増やすことを検討する。 本構想の予算とは別に、チュラロンコン大学の学生を毎年5名、カセサート大学の学生と同じ時期に受け入れる（自主交換留学）。チュラロンコン大学は25年度のAIMSリストにおいて農業分野に登録していなかったため、このような措置を取ったが、タイ政府との交渉で26年度からチュラロンコン大学が国際連携分野に農業を含める事が出来れば、上記の表の平成26～29年度の北海道大学の受け入れ学生数を15名/年に改める。 					
酪農学園大学は10名を受け入れる。					
<ul style="list-style-type: none"> 近年、タイの経済状況は良好に推移しており空前の伴侶動物ブームにある。また、生産動物分野においても外貨獲得の大きい部分を占める畜産物の輸出のさらなる発展が期待されている。そこで重要なのが獣医学の中での臨床教育の充実にある。経済状況を反映する中で大学における動物病院の整備が進められているものの、臨床教育の遅れは明らかであり、高度な臨床教育の充実が求められている。 酪農学園大学の獣医学教育は、昭和39年に生産動物医療に従事する臨床獣医師の養成を目的に設置されて以来、獣医学はもとより酪農学や環境学を研究対象とする教員や広大なキャンパス内に飼育される生産動物を含めた教育資材を有効に利用し、先端的な生産動物関連の諸科学を学ぶことで酪農家を支援する実践的な獣医師の育成を図ってきた。その基礎となっているのが附属動物病院での生産動物の診療頭数であり、年間約1万頭の生産動物を診療する中で、臨床教育を行っている。 そこで近年急速に進展したわが国の生産動物医療をカセサート大学の学生に提供し、近い将来アジア各国で広く知識や技術を普及させたい。 					
東京大学は5名を受け入れる。					
<ul style="list-style-type: none"> 東京大学に設置されている動物医療センターの伴侶動物診療件数は年間延べ2万件で、アジア地域において第1位である。また本センターでは総計20名以上のスタッフが診療・教育に従事しており、その多くが英語での教育に通じている。さらに本学には食の安全研究センターが付置され、獣医学専攻と密接に協力して食品衛生に関する研究教育を行っている。本センターはOIE（国際獣疫事務局）のCollaborating centerに指定されている。このような世界的に進んだ獣医学教育を行う。 					

※1 現状は、本構想の取組単位（学部等）における平成25年5月1日現在の人数を記入すること。

（大学名：北海道大学）

③ 本構想における日本人学生の派遣数の目標

○ 本構想において日本人学生の派遣数に関する目標が設定されているか。

現状（平成25年5月1日現在）※1

0 人

(i) 日本人学生数の達成目標

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
学士課程	0人	25人	25人	25人	25人
構想全体の達成目標（事業開始～平成29年度まで）				100人（延べ数）	
中間評価までの達成目標（事業開始～平成26年度まで）				25人（延べ数）	

(ii) 目標を設定した考え方及び達成までのプロセス（構想全体、中間評価までの双方について）

北海道大学は10名を派遣する。

・活気のある国、安定した治安、異なった文化、豊富な野生動物、教科書でしか見たことのない動物の疾患、大規模な動物病院などが日本の獣医系大学の学生がタイに抱いているイメージであり、単位互換が成立し、カリキュラムを提示し、事前説明を充実すれば、多数の派遣希望者があると予想される。派遣希望者数が見込みを大幅に超える場合には、受け入れ可能学生数を日本およびタイの大学間で協議のうえ、交換学生数を増やすことを検討する。

・本構想の予算とは別に、チュラロンコン大に北海道大学から毎年5名を、カセサート大学への派遣学生と同時期に派遣する（自主交換留学）。費用は部局内資金および外部資金で捻出する。チュラロンコン大は25年度のAIMSリストにおいて農業分野に登録していなかったため、このような措置を取ったが、タイ政府との交渉で26年度からチュラロンコン大学が国際連携分野に農業を含める事が出来れば、上記の表の平成26～29年度の北海道大学からの派遣学生数を15名/年に改める。

・学生および参加大学へのアンケート、および国家試験の成績を見たらうえで、互換単位および対象学年を広げることが中間評価後に参加校間で協議する。

酪農学園大学は10名を派遣する。

・酪農学園大学は獣医学科設立以来、アジアを中心とした開発途上国における日本の臨床獣医学技術の普及を推進している。その結果、卒業生の多くが青年海外協力隊として開発途上国に派遣されている。2009年時点で216名の卒業生が派遣され、ほとんどが獣医学科の卒業生である。この派遣数は全大学で14位であり、小規模の大学としては傑出している。

・現在もアジアやアフリカを研究の地盤としている教員も多くおり、休みを利用した海外調査活動に多くの学生が自費で参加している。

・タイには日本の獣医学教育では到底経験することも困難なエキゾチックアニマルの臨床学や家畜伝染病の発生があり、将来的に海外に活動の場を求める学生にとっては、タイで専門科目を履修する意義は大きいと思われる。学生の派遣数は毎年海外での自費参加をしている数から目標値を設定した。したがって、実数から求めた目標値のため達成目標をクリアすることは容易であると考えている。

東京大学は5名を派遣する。

・東京大学農学部獣医学専修では過去10年間、短期間（10日間）ではあるが年間5から10名の学部学生をカセサート大学に派遣してきた実績がある。この派遣事業は充実していたものの、もっと期間を延長できないかという要望があった。本申請プロジェクトにおいては、派遣期間を1学期間以上に延長することで余裕を持った現地での学習が可能になる。現地で学習する野生動物獣医学、水棲動物獣医学は日本での学習に比べてはるかに多くの事項について学べ、さらに充実度が高まると期待される。

※1 現状は、本構想の取組単位（学部等）における平成25年5月1日現在の人数を記入すること。

（大学名：北海道大学）

④国内大学からの派遣学生数等

○ 本構想において日本人学生の派遣数に関する目標が設定されているか。

※学士課程の派遣学生数及び派遣期間を、下表に右のように示してください。 1

(i)申請大学

(大学名) 北海道大学			平成25年度		平成26年度				平成27年度				平成28年度				平成29年度				
(国名) 想定される 派遣先大学名	学問 分野	授業料 不徴収 (免除)	第 3 四 半 期	第 4 四 半 期	第 1 四 半 期	第 2 四 半 期	第 3 四 半 期	第 4 四 半 期	第 1 四 半 期	第 2 四 半 期	第 3 四 半 期	第 4 四 半 期	第 1 四 半 期	第 2 四 半 期	第 3 四 半 期	第 4 四 半 期	第 1 四 半 期	第 2 四 半 期	第 3 四 半 期	第 4 四 半 期	
1 タイ カセサート大学	農業	有					10				10				10					10	
2																					
3																					
4																					
5																					
6																					
7																					
8																					
9																					
10																					
11																					
12																					
13																					
14																					
15																					

(大学名: 北海道大学)

(ii)国内連携大学

(大学名) 酪農学園大学			平成25年度		平成26年度				平成27年度				平成28年度				平成29年度				
(国名) 想定される 派遣先大学名	学問 分野	授業料 不徴収 (免除)	第 3 四 半 期	第 4 四 半 期	第 1 四 半 期	第 2 四 半 期	第 3 四 半 期	第 4 四 半 期	第 1 四 半 期	第 2 四 半 期	第 3 四 半 期	第 4 四 半 期	第 1 四 半 期	第 2 四 半 期	第 3 四 半 期	第 4 四 半 期	第 1 四 半 期	第 2 四 半 期	第 3 四 半 期	第 4 四 半 期	
1 タイ カセサート大学	農業	有					10				10				10					10	
2																					
3																					
4																					
5																					
6																					
7																					
8																					
9																					
10																					
11																					
12																					
13																					
14																					
15																					

<注意>
 連携大学からの交流人数等交流プログラムに関するデータについては、毎年度ごとのフォローアップ活動や中間評価等において確認させて頂くので、適宜ご留意下さい。

(大学名: 北海道大学)

(ii)国内連携大学

(大学名) 東京大学			平成25年度		平成26年度				平成27年度				平成28年度				平成29年度					
(国名) 想定される 派遣先大学名	学問 分野	授業料 不徴収 (免除)	第 3 四 半 期	第 4 四 半 期	第 1 四 半 期	第 2 四 半 期	第 3 四 半 期	第 4 四 半 期	第 1 四 半 期	第 2 四 半 期	第 3 四 半 期	第 4 四 半 期	第 1 四 半 期	第 2 四 半 期	第 3 四 半 期	第 4 四 半 期	第 1 四 半 期	第 2 四 半 期	第 3 四 半 期	第 4 四 半 期		
タイ カセサート大学	農業	有					5					5				5					5	
2																						
3																						
4																						
5																						
6																						
7																						
8																						
9																						
10																						
11																						
12																						
13																						
14																						
15																						

<注意>

連携大学からの交流人数等交流プログラムに関するデータについては、毎年度ごとのフォローアップ活動や中間評価等において確認させて頂くので、適宜ご留意下さい。

(大学名: 北海道大学)

⑤ 本構想における英語コース及び科目数の目標

○ 本構想において、英語によるコース及び科目数に関する目標が設定されているか。

(1) 英語による授業の科目数の達成目標

(i) 申請大学 【大学名： 北海道大学】

現状の英語による授業の科目数	81科目				
	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
AIMSプログラムにおける英語によるコース(※)数	0	3	3	3	3
全授業科目数(A)	4,601科目	4,601科目	4,601科目	4,601科目	4,601科目
うち全体の英語による授業の科目数(B)	149科目	164科目	164科目	164科目	164科目
うちAIMSプログラムにおける授業科目数(C)[単位数]	0科目 [0単位]	15科目 [17単位]	15科目 [17単位]	15科目 [17単位]	15科目 [17単位]
割合(B/A)	3.2%	3.6%	3.6%	3.6%	3.6%
割合(C/B)	0%	9.1%	9.1%	9.1%	9.1%

※コースとは、卒業要件単位に算入できる一定の科目群を体系的にまとめたものをいう。

(ii) 国内連携大学 【大学名： 酪農学園大学】

現状の英語による授業の科目数	5科目				
	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
AIMSプログラムにおける英語によるコース(※)数	0	4	4	4	4
全授業科目数(A)	1,357科目	1,357科目	1,357科目	1,357科目	1,357科目
うち全体の英語による授業の科目数(B)	5科目	12科目	12科目	12科目	12科目
うちAIMSプログラムにおける授業科目数(C)[単位数]	0科目 [0単位]	7科目 [17単位]	7科目 [17単位]	7科目 [17単位]	7科目 [17単位]
割合(B/A)	0.4%	0.9%	0.9%	0.9%	0.9%
割合(C/B)	0%	58.3%	58.3%	58.3%	58.3%

(大学名：北海道大学)

(ii) 国内連携大学 【大学名：東京大学】

現状の英語による授業の科目数	154科目				
	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
AIMSプログラムにおける英語によるコース(※)数	0	2	2	2	2
全授業科目数(A)	10,300科目	10,300科目	10,300科目	10,300科目	10,300科目
うち全体の英語による授業の科目数(B)	738科目	748科目	748科目	748科目	748科目
うちAIMSプログラムにおける授業科目数(C)[単位数]	0科目 [0単位]	10科目 [17単位]	10科目 [17単位]	10科目 [17単位]	10科目 [17単位]
割合(B/A)	7.2%	7.3%	7.3%	7.3%	7.3%
割合(C/B)	0%	1.3%	1.3%	1.3%	1.3%

(大学名：北海道大学)

(2) 目標を設定した考え方及び達成までのプロセス（構想全体、中間評価までの双方について）

獣医学の学士課程教育では、日本語による**国家試験を控えている**ため、全学教育（旧教養課程）における外国語教育を除き、英語による授業は少なかった。しかし、諸外国における獣医学関連分野（畜産、食料、野生動物、獣医療、基礎生物学研究、感染症など）に関心と知識と経験を有し、国際的な視点で日本の獣医学、農学、ひいては社会をリードできる人材の養成が、グローバル化が急速に進行している国際社会の中で日本が発展して行くために必須である。

日本の獣医系大学に入学する学生のレベルは高いので、応用および臨床科目の一部を英語化し、5年生後期に3ヶ月海外留学しても、**国家試験の成績に大きな影響はない**と考え、本プログラムへの応募を各大学で決定した。タイでは獣医師国家試験が5年間の課程修了後行われ、6年生からは獣医師資格を持って臨床実習に臨む。本構想では、学生および参加大学へのアンケート、および国家試験の成績を見たうえで、**互換単位および対象学年を広げ**ることを中間評価後に参加校間で協議する。

北海道大学獣医学部の専門教育課程（2～6年）の総科目数は119（うち18科目が選択科目）、卒業認定に必要な総単位数は196単位である。そのうち、5年後期では、**伴侶動物獣医診療実習（1単位）、産業動物獣医診療実習（1単位）、アドバンスト科目（4単位）、課題研究（6単位：5～6年通算）、研究・臨床セミナー（4単位：5～6年通算）**の合計16単位（必修）および**短期現地実習（選択、1単位）**を履修する。このうち、**課題研究（6単位）とセミナー（セミナー）**は英語で行われている。日本の獣医系大学は平成24年度からの共同教育開始に合わせてコアカリキュラムと各大学独自のアドバンスト科目を設定し、4学期制とすることで足並みをそろえて教育内容の改善に務めている。5年生後期のカリキュラムは、科目名は多様であるが、**いずれの大学においても履修単位数（上限23単位）、履修内容（臨床導入教育、臨床ローテーション、卒業論文研究、野外実習/インターンシップ）**から成っており、上記の北海道大学モデルは酪農学園大学および東京大学にもほぼ適応できる。

本構想実施後は、**5年生後期の17単位を全て英語化**し、タイからの留学生を加えて講義、演習および実習を行う。5年後期カリキュラムの英語化を平成25年度あるいは26年度から開始し、中間評価後も継続する。これらの科目の履修にあっては日本人学生とタイ人学生が**一緒に受講**し、試験問題（英文）も同じで、**GPAによる成績評価システム（相対評価）**を受講者全員に適用する。

⑥ 日本人・外国人学生に修得させる具体的能力（語学力や専門的知識）について

○ 本プログラムに参加する日本人・外国人学生に修得させる具体的能力（語学力や専門的知識）が設定されているか。

(i) 構想全体の達成目標（事業開始～平成29年度まで）

日本人学生

- ・外国人との英語を用いた**コミュニケーション能力**を身につける。
- ・カセサート大学およびチュラロンコン大学の教育動物病院では小動物、大動物および野生動物診療が極めて大規模（400～600 症例/日）に行われており、診療技術、設備、病院のマネジメント、看護師の役割、飼い主との対応など、学ぶべき点が多い。とりわけ、猛禽類および象などの**野生動物診療技術と薬草を使った治療技術**は世界でもトップレベルにあり、日本人学生には極めて興味深いとともに、学ぶべき点が多い。
- ・タイの各大学が有する広大な付属牧場・農場、野生動物生息地域、およびバンコックの開業獣医科医院で行われる野外実習あるいはインターンシップ、各研究室で行われるセミナーやラボワークへの参加によって、タイおよびASEANにおける感染症対策、食の安全、野生動物および環境の保全、基礎獣医学の発展・進展にとってどの様な技術や知識が必要とされているのか（**獣医学に対する社会的ニーズ**）を学ぶことにより、帰国後は獣医学および語学に対する学習意欲が高まる。
- ・本構想ではタイおよびその周辺のASEAN 諸国の文化、歴史、言語、生活および獣医学を体験する。また、タイの同学年の学生と交流する。それらを通して日本、日本人および日本の獣医学を見つめ直し、日本のあるべき姿、日本の獣医学の長所と短所、日本—ASEAN 間で自分に何が出来るか、などを考える能力（**国際感覚**）を涵養する。

外国人学生

- ・タイの2大学の教員および研究者は欧米志向が強かったが、近年は日本とタイの経済的および文化的交流の進展および日本で博士号を取得した教員数の増加により、日本の大学との教育・研究交流に極めて積極的である。しかし、学部学生のレベルでは日本の獣医学の学術レベルはほとんど知られていない。本構想の実施により、日本の文化、風土などとともに、日本の先進的獣医学、とりわけ**感染症制圧と食の安全**を担保する技術とシステム、**環境保全や野生動物保護**への獣医学の貢献、小・大動物に対する**高度獣医療、新規薬剤開発**に対する獣医学の関与などを学習させる。
- ・タイはASEAN の中では例外的に、他国に占領統治された歴史を持たず、独立意識が強い。それはタイの一般の人々の外国文化や外国人に関する知識の少なさや関心の薄さと通底しているように思われる。本構想では次代のタイ社会を担って行く若者を日本に招聘し、日本を学ぶことによってアジア全体を俯瞰する**国際感覚**を学習させる。

(ii) 中間評価までの達成目標（事業開始～平成26年度まで）

上記の教育目的を達成するための大学間交流・授業料免除協定締結、履習課程表とシラバスの作成と公表、教員へのFD、拠点事務および運営委員会組織の設置、野外実習およびインターンシップへの協力機関との打ち合わせ、成績優秀な少数の学生の予備的相互派遣などを中間評価までに終了する。

中間評価までに派遣あるいは受け入れが終了した学生とそれに関与した教員にアンケート調査を行い、未達成項目の点検と教育内容の改善を行う。

中間評価までに**外部評価**を行う。評価委員は国際共同教育に造詣の深い日本およびタイの外部有識者各2名、合計4名とし、実施計画に対する評価、改善点、追加すべき実施計画などについての議論と指摘をお願いする。

交流プログラムを実施する相手大学について 【ページ数については、相手大学1校につき1ページ以内とし、相手大学の数に応じたページ数以内】

交流プログラムを実施する相手大学に関して、以下の①～②を具体的に分かりやすく記入してください。また、想定される派遣先大学との国際交流協定締結文書等がある場合、様式 10 に記入の上、写しを添付してください。

相手大学名 (国名) | **カセサート大学 (タイ)**

① 交流実績 (交流の背景)

○ 交流プログラムを実施する相手大学との交流実績を有しているか。

北海道大学

平成 13 年に設置された**アジア獣医系大学協議会** (Asian Association of Veterinary School) はアジアの主要な獣医系大学の学部長・副学部長が集まって獣医学の教育研究に関する主要課題を討議する協議会であり、北海道大学、東京大学、チュラロンコン大学およびカセサート大学はその主要なメンバーとして毎回出席し、歴代の学部長は懇意である。これまでにカセサート大学から**4名 (うち3名は在学中)**の博士課程学生を受け入れ、21 世紀およびグローバル COE プログラム (平成 15～25 年度) で開催した人獣共通感染症国際トレーニングコース、および平成 20 年～24 年に開催した国際協力事業団 JICA 主宰のトレーニングコースにカセサート大学の教員および卒業生が合計**6名**参加した。

酪農学園大学

公式の大学間における学術協定は締結していない。しかし、カセサート大学の教員と酪農学園大学の教員間での相互訪問は頻繁に行われており、**近々に学術協定を締結する方向で検討**している。また、非公式ながら酪農学園大学の学生 1 名が休み期間を利用して、カセサート大学附属動物病院のエキゾチックアニマル診療部門で研修を受けている。

東京大学

東京大学農学部獣医学専攻と応用動物科学専攻は平成 15 年以降 27 名の博士課程大学院生を受け入れてきており、両校は極めて親密な関係にある。平成 16 年以降毎年、東京大学とカセサート大学間で 5～10 名の学部学生を 10 日間相互に短期派遣し、臨床系科目を中心とした相互研修を行っている。その他、両校の教員の共同研究が毎年 1 件程度行われてきている。

② 交流に向けた準備状況

○ 交流プログラムの実施に向けた相手大学との準備 (大学ごとの役割・実施体制の明確化など) が十分なされているか。

平成 23 年 3 月に東京大学、ソウル大学、カセサート大学およびチュラロンコン大学の代表が北海道大学獣医学研究科に集まり、各大学における教育・研究の現状と問題点、将来の教育連携について話し合うとともに、**UCTS (UMAP Credit Transfer System) の基幹大学であるチュラロンコン大学より UCTS に関する詳細な説明を受けた。**平成 25 年 3 月には**北海道大学獣医学部教員 3 名がカセサート大学とチュラロンコン大学を訪問し、世界展開力強化事業への応募について話し合い、計画概要およびカセサート大学が ASEAN の獣医系大学のリーダーシップを取ることに合意した。**さらに、平成 25 年 7 月 22, 23 日にカセサート大学、チュラロンコン大学、酪農学園大学、東京大学の国際共同教育担当教員が北海道大学において会合を持ち、**世界展開力強化事業への申請、単位互換、授業料の相互免除などの基本事項に合意した、**

本申請が平成 25 年 11 月に採択された場合、拠点事務、国内および国際運営委員会、各大学のプログラム担当教員などの組織整備に係る人選を年度内に終え、ホームページを立ち上げる。また、大学間交流・授業料免除協定を参加大学間で年度内に締結する。その後、日本側では履習課程表とシラバスの作成と公表、野外実習およびインターンシップへの協力機関との打ち合わせ、受け入れ学生の宿舎を確保する。カセサート大学では日本人教員駐在のための学内手続きを行い、日本人教員着任後、タイから日本へ派遣する 25 名の学生を選考し、26 年 8 月から日本の 3 大学に派遣する。

交流プログラムを実施する相手大学について 【ページ数については、相手大学1校につき1ページ以内とし、相手大学の数に応じたページ数以内】

交流プログラムを実施する相手大学に関して、以下の①～②を具体的に分かりやすく記入してください。また、想定される派遣先大学との国際交流協定締結文書等がある場合、様式10に記入の上、写しを添付してください。

相手大学名（国名） | チュラロンコン大学（タイ）

① 交流実績（交流の背景）

○ 交流プログラムを実施する相手大学との交流実績を有しているか。

北海道大学

平成13年に設置されたアジア獣医系大学協議会（Asian Association of Veterinary School）はアジアの主要な獣医系大学の学部長・副学部長が集まって獣医学の教育研究に関する主要課題を討議する協議会であり、北海道大学とチュラロンコン大学はその主要なメンバーとして毎回出席し、歴代の学部長は懇意である。これまでにチュラロンコン大学から5名（うち2名は在学中）の博士課程学生を受け入れ、21世紀およびグローバルCOEプログラム（平成15～25年度）で開催した人獣共通感染症国際トレーニングコース、および平成20年～24年に開催した国際協力事業団JICA主宰のトレーニングコースにチュラロンコン大学の教員および卒業生が合計8名参加した。

チュラロンコン大学はバンコックの中心部に広大な敷地を有し、所有地からの地代が大学運営に大きく貢献している。この潤沢な大学運営資金の一部を使って海外の有力大学との交流を活発化させており、AMISリストの農業分野に登録されていないが、自主交換留学の形で本構想に参加することを希望している。

② 交流に向けた準備状況

○ 交流プログラムの実施に向けた相手大学との準備（大学ごとの役割・実施体制の明確化など）が十分なされているか。

平成23年3月に東京大学、ソウル大学、カセサート大学およびチュラロンコン大学の代表が北海道大学獣医学研究科に集まり、各大学における教育・研究の現状と問題点、将来の教育連携について話し合うとともに、UCTS(UMAP Credit Transfer System)の基幹大学であるチュラロンコン大学よりUCTSに関する詳細な説明を受けた。平成25年3月には北海道大学獣医学部教員3名がカセサート大学とチュラロンコン大学を訪問し、世界展開力強化事業への応募について話し合い、計画概要およびカセサート大学がASEANの獣医系大学のリーダーシップを取ることに合意した。さらに、平成25年7月22、23日にカセサート大学、チュラロンコン大学、酪農学園大学、東京大学の国際共同教育担当教員が北海道大学において会合を持ち、世界展開力強化事業への申請、単位互換、授業料の相互免除などの基本事項に合意した。

本申請が平成25年11月に採択された場合、拠点事務、運営委員会、各大学のプログラム担当教員などの組織整備に係る人選を年度内に終え、ホームページを立ち上げる。また、大学間交流・授業料免除協定を参加大学間で年度内に締結する。その後、日本側では履習課程表とシラバスの作成と公表、野外実習およびインターンシップへの協力機関との打ち合わせ、受け入れ学生の宿舎の確保を行う。チュラロンコン大学は26年度内に北海道大学に派遣する5名の学生を選考し、平成26年8月から派遣を開始する。

（大学名：北海道大学）

本事業の実施計画 【①は1ページ以内、②、③は合わせて2ページ以内】

構想全体の「①年度別実施計画」、「②財政支援期間終了後の事業展開」及び「③財政支援期間終了後の事業展開に向けた資金計画」について、具体的に分かりやすく記入してください。

① 年度別実施計画**【平成25年度（申請時の準備状況も記載）】**

日本およびタイの5大学は、申請内容、単位互換、授業料の相互免除などについてすでに合意している。平成25年度内に拠点事務、国内および国際運営委員会、各大学のプログラム担当教員などの組織整備に係る人選を終え、ホームページを立ち上げる。また、大学間交流・授業料免除協定を参加大学間で年度内に締結する。その後、日本側では履習課程表とシラバスの作成と冊子体配付、野外実習およびインターンシップへの協力機関との打ち合わせ、受け入れ学生の宿舎の確保を行う。カセサート大学では日本人教員駐在のための学内手続きを終了する。参加5大学で派遣対象学年学生に対する事前説明会を開始するが、その際、派遣対象学年から成績優秀で英語能力の高い学生を各大学から1名を選んで同行させ、学生間の交流を開始する。AMIS リストに掲載されたチュラロンコン大学の分野に農業を加えるよう、チュラロンコン大学がタイ政府に要望する。

【平成26年度】

日本の3大学は平成26年8月11日からカセサート大学に5年生25名を3ヶ月間派遣する（北海道大学10名、酪農学園大学10名、東京大学5名）。同時期に北海道大学からチュラロンコン大学に5名の5年生学生を自主派遣する。一方、同一時期にカセサート大学とチュラロンコン大学から日本の3大学に上記と同数の6年生学生を派遣する。第1回の外部評価委員会を開催し、プロジェクト計画と実施状況についての評価を受ける。AMIS リストの農業分野にチュラロンコン大学が登録された場合には、チュラロンコン大学と日本の3大学との共同教育を本プロジェクト事業に組み入れ、チュラロンコン大学とカセサート大学の派遣および受け入れ学生数を15名の同数にする。

【平成27年度】

日本の3大学は平成27年8月11日からカセサート大学に5年生25名を3ヶ月間派遣する（北海道大学10名、酪農学園大学10名、東京大学5名）。同時期に北海道大学からチュラロンコン大学に5名の5年生学生を自主派遣する。一方、同一時期にカセサート大学とチュラロンコン大学から日本の3大学に上記と同数の6年生学生を派遣する。AMIS リストの農業分野にチュラロンコン大学が登録された場合には、チュラロンコン大学と日本の3大学との共同教育を本プロジェクト事業に組み入れ、チュラロンコン大学とカセサート大学の派遣および受け入れ学生数を15名の同数にする。北海道大学とカセサート大学で本プロジェクトの業績発表会を開催する。

【平成28年度】

日本の3大学は平成28年8月11日からカセサート大学に5年生25名を1学期3ヶ月間派遣する（北海道大学10名、酪農学園大学10名、東京大学5名）。同時期に北海道大学からチュラロンコン大学に5名の5年生学生を自主派遣する。一方、同一時期にカセサート大学とチュラロンコン大学から日本の3大学に上記と同数の6年生学生を派遣する。

AMIS リストの農業分野にチュラロンコン大学が登録された場合には、チュラロンコン大学と日本の3大学との共同教育を本プロジェクト事業に組み入れ、チュラロンコン大学とカセサート大学の派遣および受け入れ学生数を15名の同数にする。AMIS リストの農業分野にチュラロンコン大学が登録された場合には、チュラロンコン大学と日本の3大学との共同教育を本プロジェクト事業に組み入れ、チュラロンコン大学とカセサート大学の派遣および受け入れ学生数を15名の同数にする。

【平成29年度】

日本の3大学は平成29年8月11日からカセサート大学に25名の5年生学生を派遣する。同時期に北海道大学からチュラロンコン大学に5名の5年生学生を自主派遣する。一方、同一時期にカセサート大学とチュラロンコン大学から日本の3大学に上記と同数の6年生学生を派遣する。北海道大学とカセサート大学で本プロジェクトの業績発表会を開催する。

第2回の外部評価委員会を開催し、プロジェクト計画の達成度と財政支援終了後のプロジェクト継続計画について評価を受ける。AMIS リストの農業分野にチュラロンコン大学が登録された場合には、チュラロンコン大学と日本の3大学との共同教育を本プロジェクト事業に組み入れ、チュラロンコン大学とカセサート大学の派遣および受け入れ学生数を15名の同数にする。

② 財政支援期間終了後の事業展開

人獣共通感染症の制圧と発生源の特定、毒・薬物による食品汚染、絶滅危惧野生動物の保護、鉱山の欄採掘や農工業の発展に伴う土壌や空気の汚染など、遅く成長しているアジアが抱える諸問題の解決にアジアの獣医師が主導的役割を果たさなければならない。その意味で、アジアの獣医学のフロントランナーである日本とタイの獣医系大学の教育連携は重要であり、**本プロジェクトは財政支援期間終了後も継続・発展させる。**ASEAN ではインドネシアのボゴール農業大学、ガジャマダ大学、マレーシアのプトラ・マレーシア大学、ベトナムのハノイ農科大学がタイの2大学に次いで獣医学の教育研究レベルが高く、アジア全体では韓国のソウル大学と台湾の台湾大学のレベルが高い。日本の3大学とタイの2大学はこれらの獣医系大学と様々なレベルでの交流がある。本プロジェクトで具体化した教育連携をこれらの大学にも拡大し、アジア全体の獣医学のレベルアップに結実させる。日本—タイ—韓国—台湾のリーダーシップによって、アジアの諸問題をアジア人自身の手によって解決しなければならない。

③ 財政支援期間終了後の事業展開に向けた資金計画

タイでは、カセサート大学が ASEAN を中心としたアジアの獣医学教育支援国家プロジェクト予算を獲得しておりプロジェクトの継続が可能である。チュラロンコン大学も豊富な自己資金を使って派遣事業の継続が可能である。一方、日本では財政支援期間終了直後は学生派遣規模を一旦縮小せざるを得ないが、各大学が競争的資金を獲得して事業を継続する。具体的には、本プログラムによるスキームを他分野へ**横展開**することにより、各大学内部での競争的資金獲得、文部科学省・学術振興会が公募する教育の国際化関連事業費の獲得、(独)日本学生支援機構 JASSO の「留学生交流支援制度(短期)」の活用、各学部の間接経費投入あるいは同窓会への財政支援要請などによって、日本からの学生派遣事業を継続する。

【物品費】

本構想により拠点事務の必要機材は整うため、本財政支援終了後少なくとも数年間は、新しい設備は必要ない。研究室に受け入れたタイ人学生の学習および実験に必要な物品費は各受け入れ教員が自己の研究費で賄う。

【人件費・謝金】

プログラムリーダー、特任教員および事務補助員は任期付きで採用するので、補助金期間の終了をもってその雇用は終了する。しかし、本プログラム終了時までに学生の相互派遣に関する共通認識が日・タイの大学間ですでに成立しているので、支援期間終了後は各大学の国際本部および各学部の国際交流委員会レベルでの連絡調整で教育連携の継続が可能である。

【旅費】

学生派遣および宿泊費用、外部講師の招聘費用、レンタカーの借り上げ費用、野外実習およびインターンシップ協力機関への謝金などは、学内外の競争的資金の獲得につとめるとともに、後述する同窓会費などの学部内資金の活用によって賄う。

【その他】

3大学は、**同窓からの寄附**の一部を、同窓会および寄付者の了解を得て、本プロジェクト継続経費として使用できるよう努力する。また、派遣学生が自ら**旅費**や**滞在費**を支払ってでも派遣を希望する環境を整えてゆく。

支援期間における各経費の明細【年度ごとに1ページ】					
○ 資金計画が、経費や規模の面で合理的であるか。					
					(単位:千円)
補助金申請ができる経費は、当該構想の遂行に必要な経費であり、本事業の目的である大学の世界展開力強化のための用途に限定されます。(平成25年度大学の世界展開力強化事業公募要領参照。)			記載例:教材印刷費 ○○○千円 ○○部×@○○○円 :謝金 ○○○千円 ○○人×@○○○円		
【年度ごとに1ページ】					
<平成25年度>	経費区分	補助金申請額 (①)	大学負担額 (②)	事業規模 (①+②)	該当ページ
	【物品費】	2,500	2,000	4,500	
	①設備備品費	2,000	2,000	4,000	
	・日本およびタイ拠点事務什器類	2,000	2,000	4,000	様式2①(1)受入13行目
	・				
	②消耗品費	500		500	
	・事務消耗品費	500		500	様式3①計画内容4行目
	・				
	【人件費・謝金】	13,000		13,000	
	①人件費	13,000		13,000	様式2①計画内容3行目
	・特任教員 3名	10,000		10,000	
	・事務補助員	3,000		3,000	
	②謝金				
	・				
	・				
	【旅費】	7,000		7,000	
	・国内旅費	2,000		2,000	様式2①受入24行目
	・外国旅費	3,000		3,000	様式2①受入21行目
	・外国人招聘旅費	2,000		2,000	様式2①受入21行目
	・				
	・				
	【その他】	2,000	800	2,800	
	①外注費	500		500	
	・拠点ホームページ立ち上げ	500		500	様式8③計画内容1行目
	・				
	②印刷製本費	400		400	
	・シラバス 1,000部	400		400	様式3①計画内容8行目
	・				
	③会議費	600		600	
	・日本での会議	200		200	様式2①受入24行目
	・タイでの会議	400		400	様式2①受入21行目
	④通信運搬費	500		500	
	・電話・郵便代等	500		500	様式3①計画内容6行目
	・				
	⑤光熱水料				
	・				
	・				
	⑥その他(諸経費)		800	800	
	・日本およびタイ拠点事務室借り上げ料		800	800	様式2①(1)受入13行目
平成25年度	合計	24,500	2,800	27,300	

(大学名:北海道大学)

(前ページの続き)

(単位:千円)

＜平成26年度＞	経費区分	補助金申請額 (①)	大学負担額 (②)	事業規模 (①+②)	該当ページ
[物品費]			2,000	2,000	
①設備備品費					
・					
・					
②消耗品費			2,000	2,000	
・事務消耗品費			2,000	2,000	様式3①計画内容4行目
・					
[人件費・謝金]		37,000		37,000	
①人件費		36,000		36,000	様式2①計画内容3行目
・特任教員 3名		28,000		28,000	
・事務補助員 2名		8,000		8,000	
②謝金		1,000		1,000	
・チューター謝金		1,000		1,000	様式2②計画内容22行目、様式3②計画内18行目
[旅費]		3,500		3,500	
・国内旅費		1,000		1,000	様式2①受入24行目
・外国旅費		2,000		2,000	様式2①受入21行目
・外国人招聘旅費		500		500	様式2①受入21行目
・					
[その他]		19,500	3,000	22,500	
①外注費					
・					
②印刷製本費		500		500	
・シラバスおよびパンフレット 1000部		500		500	様式3①計画内容8行目
・					
③会議費		500		500	
・外部評価会開催経費		500		500	様式8①計画10行目
・					
④通信運搬費			1,000	1,000	
・電話・郵便代等			1,000	1,000	様式3①計画内容6行目
⑤光熱水料					
・					
⑥その他(諸経費)		18,500	2,000	20,500	
・学生派遣旅費 25名		7,500		7,500	様式2①(2)派遣10行目
・学生用宿舍借り上げ		6,000		6,000	様式2①(2)派遣10行目
・レンタカー代(運転手雇用費を含む)		2,000		2,000	様式2①(2)派遣10行目
・野外実習およびインターンシップ委託費		3,000		3,000	様式2①(2)派遣10行目
・日本およびタイ拠点事務室借り上げ料			2,000	2,000	様式2①(1)受入13行目
平成26年度	合計	60,000	5,000	65,000	

(大学名:北海道大学)

(前ページの続き)

(単位:千円)

＜平成27年度＞	経費区分	補助金申請額 (①)	大学負担額 (②)	事業規模 (①+②)	該当ページ
[物品費]			2,000	2,000	
①設備備品費					
・					
・					
②消耗品費			2,000	2,000	
・事務消耗品費			2,000	2,000	様式3①計画内容4行目
・					
[人件費・謝金]		37,000		37,000	
①人件費		36,000		36,000	様式2①計画内容3行目
・特任教員 3名		28,000		28,000	
・事務補助員 2名		8,000		8,000	
②謝金		1,000		1,000	
・チューター謝金		1,000		1,000	様式2②計画内容22行目、様式3②計画内18行目
[旅費]		3,500		3,500	
・教職員国内旅費		1,000		1,000	様式2①受入24行目
・教職員外国旅費		2,000		2,000	様式2①受入21行目
・外国人招聘旅費		500		500	様式2①受入21行目
・					
[その他]		19,500	3,000	22,500	
①外注費					
・					
②印刷製本費		500		500	
・シラバスおよびパンフレット 1000部		500		500	様式3①計画内容8行目
・					
③会議費		500		500	
・日本での会議		200		200	様式2①受入24行目
・タイでの会議		300		300	様式2①受入21行目
④通信運搬費			1,000	1,000	
・電話・郵便代等			1,000	1,000	様式3①計画内容6行目
⑤光熱水料					
・					
⑥その他(諸経費)		18,500	2,000	20,500	
・学生派遣旅費 25名		7,500		7,500	様式2①(2)派遣10行目
・学生用宿舍借り上げ		6,000		6,000	様式2①(2)派遣10行目
・レンタカー代(運転手雇用費を含む)		2,000		2,000	様式2①(2)派遣10行目
・野外実習およびインターンシップ委託費		3,000		3,000	様式2①(2)派遣10行目
・日本およびタイ拠点事務室借り上げ料			2,000	2,000	様式2①(1)受入13行目
平成27年度	合計	60,000	5,000	65,000	

(大学名:北海道大学)

(前ページの続き)

(単位:千円)

＜平成28年度＞	経費区分	補助金申請額 (①)	大学負担額 (②)	事業規模 (①+②)	該当ページ
[物品費]			2,000	2,000	
①設備備品費					
・					
②消耗品費			2,000	2,000	
・事務消耗品費			2,000	2,000	様式3①計画内容4行目
・					
[人件費・謝金]		37,000		37,000	
①人件費		36,000		36,000	様式2①計画内容3行目
・特任教員 3名		28,000		28,000	
・事務補助員 2名		8,000		8,000	
②謝金		1,000		1,000	様式2②計画内容22行目、様式3②計画内18行目
・チューター謝金		1,000		1,000	
[旅費]		3,500		3,500	
・教職員国内旅費		1,000		1,000	様式2①受入24行目
・教職員外国旅費		2,000		2,000	様式2①受入21行目
・外国人招聘旅費		500		500	様式2①受入21行目
・					
[その他]		19,500	3,000	22,500	
①外注費					
・					
②印刷製本費		500		500	
・シラバスおよびパンフレット 1000部		500		500	様式3①計画内容8行目
・					
③会議費		500		500	
・日本での会議		200		200	様式2①受入24行目
・タイでの会議		300		300	様式2①受入21行目
④通信運搬費			1,000	1,000	
・電話・郵便代等			1,000	1,000	様式3①計画内容6行目
・					
⑤光熱水料					
・					
⑥その他(諸経費)		18,500	2,000	20,500	
・学生派遣旅費 25名		7,500		7,500	様式2①(2)派遣10行目
・学生用宿舍借り上げ		6,000		6,000	様式2①(2)派遣10行目
・レンタカー代(運転手雇用費を含む)		2,000		2,000	様式2①(2)派遣10行目
・野外実習およびインターンシップ委託費		3,000		3,000	様式2①(2)派遣10行目
・日本およびタイ拠点事務室借り上げ料			2,000	2,000	様式2①(1)受入13行目
平成28年度	合計	60,000	5,000	65,000	

(大学名:北海道大学)

(前ページの続き)

(単位:千円)

＜平成29年度＞	経費区分	補助金申請額 (①)	大学負担額 (②)	事業規模 (①+②)	該当ページ
[物品費]			2,000	2,000	
①設備備品費					
・					
・					
②消耗品費			2,000	2,000	
・事務消耗品費			2,000	2,000	様式3①計画内容4行目
・					
[人件費・謝金]		37,000		37,000	
①人件費		36,000		36,000	様式2①計画内容3行目
・特任教員 3名		28,000		28,000	
・事務補助員 2名		8,000		8,000	
②謝金		1,000		1,000	
・チューター謝金		1,000		1,000	様式2②計画内容22行目、様式3②計画内18行目
[旅費]		3,500		3,500	
・教職員国内旅費		1,000		1,000	様式2①受入24行目
・教職員外国旅費		2,000		2,000	様式2①受入21行目
・外国人招聘旅費		500		500	様式2①受入21行目
・					
[その他]		19,500	3,000	22,500	
①外注費					
・					
②印刷製本費		500		500	
・シラバスおよびパンフレット 1000部		500		500	様式3①計画内容8行目
・					
③会議費		500		500	
・外部評価会開催経費		500		500	様式8①計画10行目
・					
④通信運搬費			1,000	1,000	
・電話・郵便代等			1,000	1,000	様式3①計画内容6行目
・					
⑤光熱水料					
・					
⑥その他(諸経費)		18,500	2,000	20,500	
・学生派遣旅費 25名		7,500		7,500	様式2①(2)派遣10行目
・学生用宿舍借り上げ		6,000		6,000	様式2①(2)派遣10行目
・レンタカー代(運転手雇用費を含む)		2,000		2,000	様式2①(2)派遣10行目
・野外実習およびインターンシップ委託費		3,000		3,000	様式2①(2)派遣10行目
・日本およびタイ拠点事務室借り上げ料			2,000	2,000	様式2①(1)受入13行目
平成29年度	合計	60,000	5,000	65,000	

(大学名:北海道大学)

構想の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及 【①～③合わせて2ページ以内】

構想の実施に伴う大学の国際化と情報公開、成果の普及について、①～③の内容を実績・準備状況を踏まえて、計画内容を具体的に記入してください。

① 構想の実施、達成・進捗状況の評価体制

- 構想の実施、達成状況を評価し、改善を図るための評価体制が整備されているか。

【実績・準備状況】

北海道大学大学院獣医学研究科と東京大学大学院農学生命科学研究科獣医学専攻はこれまでに日本学術振興会のインターナショナルトレーニングプログラム（平成19年～23年）と組織的な若手研究者等海外派遣プログラム（平成21年～23年度）に共同応募して採択され、大学院以上の若手研究者育成を行ってきたが、その際には両大学の緊密な連携と外部評価の実施によってプログラムを成功させてきた実績がある。酪農学園大学と北海道大学は地理的に近接しており、日常的な交流がある。従って、大学間共同プロジェクトの実施状況を不断に検証し、改善してゆくための基盤は整っており、十分な経験もある。

学部授業の一部を英語化することの必要性については5大学の学部執行部と学部の教務責任者間ですでに合意しており、問題なく実施できる。

【計画内容】

日本とタイの獣医系大学間で単位互換を伴う学部学生を対象とした共同教育は初めての試みであり、当初は想定できなかった様々な障壁に遭遇することが予想される。本構想では、以下の措置によって実施計画を不断に改革・改善し、プロジェクトの円滑な実施を担保する。

- ・日本およびタイの拠点事務所に駐在する特任教員が各大学のプロジェクト担当教員およびチューターと密接に連絡を取り合い、各大学の教員および学生のニーズと提案を国内および国際運営委員会に連絡する。国際運営委員会は毎年2回開催予定で、重要な改革は本委員会の了承を必要とするが、緊急を要する事項については、プログラムリーダーの判断でトップダウン的に対応することを認める。

- ・平成26年度と27年度に連携大学の教員、チューターおよび学生に対するアンケート調査（拠点のホームページを活用）を行い、実施計画の改善と新たな課題発見に活用する。

- ・平成26年と29年に外部評価委員会を開催し、前者では実施計画に対する評価、改善点、追加すべき実施計画を、後者ではプロジェクトの成果に対する評価、財政支援終了後のプロジェクト継続に関する提案を中心に審議する予定である。外部評価委員は4名とし、日本およびASEANの国際共同教育に造詣の深い外部有識者を任命する。

② 事務体制の強化

- 本事業の取組に対応するため、事務局機能を強化するなど構想をサポートする全学的体制の充実（交流にかかると業務が一部の教職員に偏らないよう、窓口となる担当部署を設定し、教職員間の情報共有、意思疎通や各種問い合わせへの対応、プログラム運営上の関係者間の調整など）が図られているか。

- 招聘した外国人教員や外国人学生とのコミュニケーションを図れる程度の能力を有する事務職員を配置できるよう、事務職員の能力向上を推進しているか。

【実績・準備状況】

- ・日本の3大学は外国人博士課程留学生の増加に伴い、英語の出来る事務職員の配置を進めている。北海道大学獣医学部では、大学院関連文書（学位規定、カリキュラムおよびシラバスなど）のほぼ全てについて日本語版と英語版を用意している。また、GCOE やーディング大学院プログラムの実施には英語が堪能な事務職員の雇用が必須なので、これらのプロジェクト担当事務職員の採用に当っては英語能力を重視してきた。その結果、学部内放送は日本語と英語で行われ、教員、職員および学生にごく普通に受け入れられている。一方、北海道大学では以下の全学的な改革を行い、大学全体の国際化に努力している。

- ・構想をサポートする全学の体制：平成22年度に国際本部を設置して以来、国際関係の業務を集約しており、留学生及び外国人研究者の支援のために提供できる機能として、渡日時の生活立ち上げに係るサポート、英語により対応可能なカウンセリング、宿舎、日本語研修、留学生等が日本文化等に親しむことができるソーシャルプログラム（禅ゼミ等）等の提供を行うとともに、外国人教員・留学生等に関する規程等学内文書を順次英訳し、北海道大学ホームページに掲載している。その他、部局等の協定締結の支援も行っており、本事業に対しても、国際本部の持つ機能をもって全面的にバックアップする。

- ・英語のできる国際担当職員の配置実績：若手職員を長期の海外研修プログラムへ積極的に派遣し、研修後は国際関係部署に配置している。また、既に13学部／研究科の事務部に、英語対応が可能な職員を1名以上配置した。平成22年度に、全学的な国際活動の企画・運営機能を国際本部へ集約し、国際事務の

ワン・ストップ・サービス機能を進化させ、さらに、外国語力と専門能力をもつ7名の職員を採用し、人員を増強した。これらにより、増加する国際事務に対応するとともに、文書の英語化や国際広報などの国際業務を効率化・集約化している。

・語学等に関する職員の研修プログラム：北海道大学の国際化に資するため、事務職員に対する英語研修をレベル別や内容別を実施している。平成24年度は「初任職員英語研修（受講者27名）」、「事務職員英語研修（中級）（受講者16名）」および「事務職員英語研修（上級）（受講者10名）」のほか、グローバル人材育成推進事業として採択された学士課程特別教育プログラム「新渡戸カレッジ」の平成25年度創設に伴い、高度で実践的な英会話運用能力を身につけさせることを目的として、新たに「事務職員英語研修（グローバル化対応）」を実施し（受講者15名）、大学業務に密接した内容のプログラムを取り入れた。さらに、北海道大学では、職員の主体的な能力開発の取組を支援する「自己研鑽のための取組支援事業」を実施しており、勤務時間外に、自己研鑽のための取組を行った事務職員に対して、当該事務職員からの申請に基づき、審査の上、予算の範囲内で、取組に係る経費の一部を支援している。

【計画内容】

・本構想の実施に関しては5大学の学部間ですでに合意されており、各大学で選抜するプロジェクト担当者には学部の**国際交流委員会委員長**を充て、本構想の実施を当該委員会組織がバックアップする。また、日本の各学部のプロジェクト担当教員（学部の国際交流委員長）と学部長が国内運営委員会に、学部長が国際運営委員会に参加することにより、**各学部が全学規模で本プロジェクトに取り組む体制を整える**。
・事務補助員2名は一般公募によって採用するが、英語のコミュニケーションおよび作文能力を有することが絶対条件である。2名中1名は主として会計業務を、もう1名は学務業務を担当する。

③ 国内外への情報提供の方法・体制

- 質を保证する観点や学生の適切な判断・選択に資する観点から、取組の実施状況等や交流プログラムの詳細など必要な情報について、外国語による提供も含め、積極的に情報の発信を行うものとなっているか。
- 中央教育審議会大学分科会国際的な大学評価活動に関するワーキンググループ「国際的な大学評価活動の展開状況や我が国の大学に関する情報の海外発信の観点から公表が望まれる項目の例」（平成22年6月）が掲げる、国際的な活動に特に重点を置く大学において公表が望まれる項目について、大学のグローバル化に向けた戦略的な国内外への教育情報の発信を行うものとなっているか。
- 取組を通じて得られた成果について、ホームページ等による公表の他、報告会、発表会等の報告の場を設けて、各大学や学生、産業界等への普及を図るものとなっているか。

【実績・準備状況】

北海道大学獣医学および獣医学研究科では従来からの冊子体の学部案内作成を中止し、その労力と費用をホームページの充実にあて、常に最新情報を掲載するよう努力している。このホームページは**英語版** <http://www.vetmed.hokudai.ac.jp/en/>と日本語版から成っており、**海外から英語版へのアクセス数が多い**。北海道大学全体としては、学生に関する基本的な情報、外国人職員数、外部資金の獲得状況、協定などの教育の国際連携、大学の戦略、外部評価等の実施状況、教育課程とその水準、研究成果、留学生への対応などを日本語および英語で大学のホームページに公表している。さらに、平成23年度から、外国人教員・留学生等に関する規程等学内文書のうち学内における優先度が高い文書から順次英訳をし、北海道大学HPに掲載している（平成24年度末の掲載文書数：118）。加えて、留学生メール配信システムにより、教務に関する情報等について配信を行っているほか、さらなる戦略的情報発信のため、平成25年度から全面的に英文版ホームページを改訂するなどし、留学生への情報発信について積極的に取り組んでいる。

【計画内容】

北海道大学獣医学部および獣医学研究科のウェブサイト**に本プロジェクトのページを設置し**、本プロジェクトの実施計画と目的、実施状況、派遣学生の公募、各大学の提供カリキュラムとシラバス、指導教員およびプロジェクト推進者のプロフィール、派遣学生からの投稿文などの情報を日本語と英語で掲載する。また、各大学のホームページと北海道大学拠点のホームページをリンクさせ、どの大学のホームページからでもアクセス出来るよう措置する。これらの措置により、**構想参加大学のみならず、アジアのどの獣医系大学からも、また一般社会からも、本プロジェクトの内容と進捗状況が把握でき**、野外実習やインターンシップの協力機関を得やすい。

平成27年度および29年度に、北海道大学とカセサート大学で**本プロジェクトの報告会を開催**する。本会では派遣経験者を中心に、チューター、プロジェクト担当教員、プログラムリーダー、特任教員および各学部の責任者が本プロジェクトの成果を発表し、参加者の意見を聞く。

大学の世界展開に向けた取組の実績 【国内の大学1校につき2ページ以内】

大学におけるこれまでの世界展開に向けた取組の実績について、本構想との関連性を踏まえつつ下記の点にも言及して具体的に分かりやすく記入するとともに、記入した内容の裏付けとなる資料を様式 11④に添付してください。

大学名

北海道大学

- 英語による授業の実施や留学生との交流、海外の大学と連携して学位取得を目指すプログラムの開発等、国際的な教育環境の構築に取り組んできた実績を有しているか。
- 海外の有力大学が参加する国際的なネットワークへの参加や、単なる枠組の形成にとどまらない、実質的な交流が継続して行われてきた実績を有しているか。
- 国際化に対応するため、外国人教員や国際的な教育研究の実績を有する日本人教員の採用や、FD等による教員の資質向上に取り組んできた実績を有しているか。
- 英語のできる国際担当職員の配置、語学等に関する職員の研修プログラムなど、事務体制の国際化に取り組んできた実績を有しているか。
- 厳格な成績管理、学生が履修可能な上限単位数の設定、明確なシラバスの活用等による学修課程と出口管理の厳格化など、単位の実質化に取り組んできた実績を有しているか。

1) 国際的教育環境の構築

▼**英語による授業の実施**：これまでの英語による授業開講支援策により、英語による授業科目は平成 24 年度で、4 学部 7 科目、10 大学院 231 科目となっており（平成 22 年と比べ全体として 48 科目増）、着実に増加している。また、平成 24 年度グローバル人材育成推進事業に採択された「新渡戸カレッジ構想」により、英語母語話者教師団（全部局のバイリンガル教師のネットワーク）を新たに設置し、各学部で英語による授業を提供する教員とのネットワークを活用するなどして英語授業の拡大及び改善を進め、平成 28 年度には外国語による授業の実施割合を 10.9%とする目標を掲げて、さらなる拡充を推進している。

▼**ダブルディグリープログラム (DDP)**：一層の教育研究の国際化を実現するため、平成 20 年度にワーキンググループを設置し、海外の大学との共同教育プログラムの一つとしてのダブル・ディグリー・プログラム (DDP) の構築並びに諸外国との単位互換を進める上での指針を策定し、報告書として学内に周知した。さらに、DDP の構築・実施に必要な一連の手続きを手引きにまとめて冊子及び学内ホームページ（以下、HP とする）を通して各部署に提供する他、DDP の構築を進める部署に対し、協議のための旅費や情報の提供等の支援を行っている。平成 23 年より現在に至るまで 7 件の DDP が締結され、平成 24 年度には、北海道大学として初めての DDP 修了者が誕生した。

2) 海外の有力大学との実質的交流の継続実績

▼**ソウル大学とのジョイントシンポジウム**：北海道大学とソウル大学は、平成 9 年に大学間交流協定を締結し、これを記念して平成 10 年に第 1 回合同シンポジウムを札幌で開催して以来、毎年交互に開催校となって合同シンポジウムを開催しており、全学的な交流を行っている。期間中は、全体会と分科会を設け、各分野における活発な意見交換・研究交流を実施しており、当シンポジウムは、平成 25 年度で 16 回目の開催となる。

▼**アジア-太平洋地域の大学院教育コンソーシアム ProSPER.Net**：北海道大学国際担当副学長が交渉役を担い、国連大学高等研究所ならびにアジアの有力大学（チュラロンコン大学、ガジャマダ大学など）が発起人となり、平成 20 年にアジア-太平洋地域の大学院教育コンソーシアム ProSPER.Net（Promotion of Sustainability in Postgraduate Education and Research Network）を開設した。ProSPER.Net は、サマースクールにより共同教育を行いつつ、教科書作成、FD、大学評価システムづくり等、教育の質保証に資する取り組みを実施しており、北海道大学は平成 24 年度途中まで、議長を務めてきた。

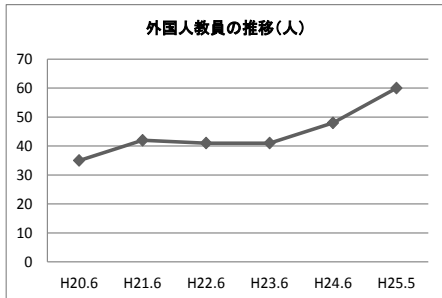
▼**University of the Arctic (UArctic、北極圏大学) への加盟**：University of the Arctic は、北極圏 8 カ国（カナダ、フィンランド、ノルウェー、ロシア及びアメリカ合衆国等）の教育研究機関を中心とした、北方圏の持続的な発展を目的とする教育研究機関ネットワークであり、北海道大学は、平成 23 年 6 月に本ネットワークに Associate Member として加盟し、現在、同ネットワークの加盟機関は 140 以上に上る。加盟機関の間では、共同セミナー、学生交流プログラム、オンライン授業、また大学院共同プログラムなどが行われており、北海道大学はこのネットワークを通して、メンバー校とのさらなる関係強化を目指すとともに、UArctic Students' Forum には、毎年継続的に北海道大学から参加者を派遣し、学生の海外研鑽も実施している。なお、日本から UArctic に加盟している大学は北海道大学のみである。

▼**ASEAN 諸国との大学院共同教育プログラム**：北海道大学 6 研究科とインドネシア共和国 3 大学及びタイ王国 3 大学（カセサート大学、チュラロンコン大学、タマサート大学）とにおいて、平成 24 年度の「大学の世界展開力強化事業」として採択された大学院共同教育プログラム「人口・活動・資源・環境の負の連環を転換させるフロンティア人材育成プログラム (PARE)」を開始し、7 大学による大学院共同教育のためのコンソーシアムを立ち上げ、ASEAN の 6 大学から受け入れる留学生を対象とした新たな教育プログラ

ムを開発・実施し、平成 24 年度は 18 名の学生を受け入れた。

3) 国際化への対応

▼外国人教員の採用(外国人教員の雇用に係るインセンティブ付与)：平成 18 年度にポイント制教員人件費管理システム(※)を導入し、平成 23 年度からは、常勤の外国人教員を新規採用した場合のインセンティブとして、職種に応じた一定のポイントを採用部局に追加付与する取り組みを始めた。



この結果、同システム導入前には横ばいだった常勤の外国人教員の数は上昇傾向を示しており、平成 25 年には、導入前の約 1.5 倍に当たる 60 名を雇用している(左図参照)。

※ポイント制教員人件費管理システム

各研究科等の教員数をポイント(教授 1.0、准教授 0.8、講師 0.7、助教 0.6)に置き換え、各研究科等のポイント総計を算出し、その総ポイント内であれば、職種及び員数にとられない教員の配置を可能とした制度。

▼教員の資質向上への取り組み：平成 22 年度の試行を踏まえ、平成 23 年度から、全学の中堅教員を対象とした、北大型次世代 FD プログラムを実施している。併せて新任教員 FD 研修も実施しており、平成 24 年度には、新任教員用の教育ワークショップの講義内容を映像化したものを北海道大学オープンコースウェアで公開することにより、北海道大学の全教員が FD 研修を受講できる環境を整備した。また、北海道大学高等教育推進機構及び教育改革室にて「次世代 FD の研究」報告書を作成し、活動及び成果のほか、将来への提言をまとめ、ホームページに公表しているほか、北海道地区 FD・SD 推進協議会ホームページに、大学の FD の推進に係る情報及び FD や授業改善に関するマニュアルを掲載する等により、各大学間の情報の共有及び協力体制の強化をはかっている。

4) 事務体制の国際化

▼英語のできる国際担当職員の配置実績：若手職員を長期の海外研修プログラムへ積極的に派遣し、研修後は国際関係部署に配置している。また、既に 13 学部/研究科の事務部に、英語対応が可能な職員を 1 名以上配置した。平成 22 年度に、全学的な国際活動の企画・運営機能を国際本部へ集約し、国際事務のワン・ストップ・サービス機能を進化させ、さらに、外国語力と専門能力をもつ 7 名の職員を採用し、人員を増強した。これらにより、増加する国際事務に対応するとともに、文書の英語化や国際広報などの国際業務を効率化・集約化している。

▼語学等に関する職員の研修プログラム：北海道大学の国際化に資するため、事務職員に対する英語研修をレベル別や内容別に実施している。平成 24 年度は「初任職員英語研修」、「事務職員英語研修(中級)」および「事務職員英語研修(上級)」のほか、学士課程特別教育プログラム「新渡戸カレッジ」の平成 25 年度創設の決定に伴い、高度で実践的な英会話運用能力を身につけさせることを目的として、新たに「事務職員英語研修(グローバル化対応)」を実施し、大学業務に密接した内容のプログラムを取り入れた。さらに、北海道大学では、職員の主体的な能力開発の取組を支援する「自己研鑽のための取組支援事業」を実施しており、勤務時間外に、自己研鑽のための取組を行った事務職員に対して、当該事務職員からの申請に基づき、審査の上、予算の範囲内で、取組に係る経費の一部を支援している。

5) 単位の実質化への取り組み

▼GPA 制度と履修登録単位数の上限設定：北海道大学では、学士課程から GPA 制度(平成 17 年度)や履修登録単位数の上限設定(平成 18 年度)を導入済みである。

▼シラバスの充実：北海道大学では、平成 12 年度から各授業科目のシラバスを HP に公表するとともに、教育ワークショップなどで授業設計の方法、シラバスの書き方についての内容改善を図っており、平成 21 年度からは、「シラバスコントロール」を実施し、優れたシラバス例の周知等を通じて教育の質の改善を進めている。

▼ナンバリング制度の導入(授業科目のコード化)：教育内容・水準の明確化及び体系的な教育プログラムを編成するため、平成 25 年度から、本制度を全学教育科目、国際交流科目、教職科目及び獣医学部を含む準備が整った部局の専門科目において実施することとした。また、海外の多くの大学と共通の授業レベルの標記を採用し、北海道大学から海外へ留学する学生にとっても、授業のレベルを比較しやすいものとなっているなど、国際的に通用するものとした。

▼GPA 等に基づく厳格な卒業認定基準導入：GPA に基づく厳格な卒業認定基準の導入については、調査検討の結果、北海道大学では、学部によって独自の卒業試験の実施等により既に厳格な卒業認定基準を設定していることや、GPA の評価基準が異なる(絶対評価・相対評価等)ことから、GPA 制度の見直しも含め、厳格な卒業認定の方法についてさらなる検討を行っている段階である。

大学の世界展開に向けた取組の実績 【国内の大学1校につき2ページ以内】

大学におけるこれまでの世界展開に向けた取組の実績について、本構想との関連性を踏まえつつ下記の点にも言及して具体的に分かりやすく記入するとともに、記入した内容の裏付けとなる資料を様式 11④に添付してください。

大学名	酪農学園大学
<ul style="list-style-type: none"> ○ 英語による授業の実施や留学生との交流、海外の大学と連携して学位取得を目指すプログラムの開発等、国際的な教育環境の構築に取り組んできた実績を有しているか。 ○ 海外の有力大学が参加する国際的なネットワークへの参加や、単なる枠組の形成にとどまらない、実質的な交流が継続して行われてきた実績を有しているか。 ○ 国際化に対応するため、外国人教員や国際的な教育研究の実績を有する日本人教員の採用や、FD等による教員の資質向上に取り組んできた実績を有しているか。 ○ 英語のできる国際担当職員の配置、語学等に関する職員の研修プログラムなど、事務体制の国際化に取り組んできた実績を有しているか。 ○ 厳格な成績管理、学生が履修可能な上限単位数の設定、明確なシラバスの活用等による学修課程と出口管理の厳格化など、単位の実質化に取り組んできた実績を有しているか。 	
<p>酪農学園大学では、早くから国際化を獣医学教育に導入することを模索してきたが、いまだ実現するに至っていない。その大きな理由は、獣医学教育の最終的な着地点が学生全員が受験する獣医師国家試験にあることである。獣医学の専門科目のほとんどが国家試験対象科目となっており、私学ではできるだけ多くの学生を合格させなければならないという宿命がある。そのような教育環境において英語による教育を実施することに教員や学生の多くは不安を抱いている。しかし、獣医学教育の国際化を少しでも前進させるために、海外経験の豊富な教員の採用を積極的に推進している。このような教員の研究拠点は海外にあり、休み期間を利用して学生に海外経験を積ませている。また、ゼミでの完全英語化や英語による研究発表、部分的ながら英語による講義も試みられている。</p> <p>一方、酪農学園大学は海外の16カ国33機関と学術協定を締結しており、その多くは大学であることから学生研修を積極的に受け入れている。海外機関との調整を実施する事務部門として、エクステンションセンター国際交流課があり、3名の英語に堪能な職員が勤務している。</p>	

大学の世界展開に向けた取組の実績 【国内の大学1校につき2ページ以内】

大学におけるこれまでの世界展開に向けた取組の実績について、本構想との関連性を踏まえつつ下記の点にも言及して具体的に分かりやすく記入するとともに、記入した内容の裏付けとなる資料を様式 11④に添付してください。

大学名

東京大学

- 英語による授業の実施や留学生との交流、海外の大学と連携して学位取得を目指すプログラムの開発等、国際的な教育環境の構築に取り組んできた実績を有しているか。
- 海外の有力大学が参加する国際的なネットワークへの参加や、単なる枠組の形成にとどまらない、実質的な交流が継続して行われてきた実績を有しているか。
- 国際化に対応するため、外国人教員や国際的な教育研究の実績を有する日本人教員の採用や、FD等による教員の資質向上に取り組んできた実績を有しているか。
- 英語のできる国際担当職員の配置、語学等に関する職員の研修プログラムなど、事務体制の国際化に取り組んできた実績を有しているか。
- 厳格な成績管理、学生が履修可能な上限単位数の設定、明確なシラバスの活用等による学修課程と出口管理の厳格化など、単位の実質化に取り組んできた実績を有しているか。

東京大学憲章、東京大学の行動シナリオ、東京大学国際化推進構想、中期目標・中期計画のもとで、グローバルキャンパスの形成と、国際的存在感の向上を最優先事項との一つとして、以下のような事業を展開しつつ、全学的な国際化を推進している。

【英語のみで学位取得が可能なコースの整備及び公開等】

本学では、かねてから英語のみで学位を取得することができるコースが開設されていたところだが、大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業(グローバル 30)に採択されたことにより、学部 2 コース、大学院 38 コースで英語のみで学位を取得することが可能となっている。また、情報や講義をインターネット上で公開する等、他大学との教育プログラムの連携を推進している。

【ダブルディグリープログラム】

公共政策大学院にて、コロンビア大学、シンガポール大学、パリ政治学院を相手方とし、ダブルディグリープログラムを実施している。今後も世界有数の大学等と同様のプログラムを行うべく積極的に計画しているところである。特に、平成23年度に大学の世界展開力強化事業に採択された公共政策・国際関係分野におけるBESETO ダブル・ディグリー・マスタープログラムにより、北京大学、ソウル国立大学校とのダブルディグリープログラムを軸とした3大学間のトライアングル交流を実施している。

【国際的ネットワークへの参加等】

平成 18 年 1 月に、米国のイェール大学、カリフォルニア大学パークレー校、英国のオックスフォード大学、ケンブリッジ大学、オーストラリア国立大学、北京大学、シンガポール国立大学、スイス連邦工科大学チューリッヒ校、コペンハーゲン大学の世界の著名な 9 大学とともに、国際研究型大学連合 (IARU: International Alliance for Research Universities) を設立した。この他にも本学は環太平洋大学協会 (APRU: Association of Pacific Rim Universities) および東アジア研究型大学協会 (AEARU: Association of East Asian Research Universities)、東アジア四大学フォーラム (BESETOHA: 各大学の所在地の頭文字から)、国際大学協会 (International Association of Universities) のメンバーになっている。これらのネットワークでは、それぞれ設定されたテーマによる研究活動、シンポジウム開催等の他、各々の大学で開催されるサマースクールに相互に学生を派遣するなど、学生交流も活発に行っている。

また、上記のような大学間ネットワーク同士の連携が必要であるとの問題意識の下に、知の共有化 (Network of Networks) プロジェクトを立ち上げ、大学間ネットワークの状況を可視化するツールを開発し、将来的には、多数あるネットワークを束ねる枠組みを日本主導で推進したいと考えている。同様の問題意識の下、平成 23 年 2 月には、「高等教育の地域協力と地域間協力」と題した国際シンポジウムを世界各国のキーパーソンを集め開催した。

【東大フォーラムの開催】

東大フォーラム (旧称 UT Forum) は、本学の優れた学術研究成果を世界に発信し、海外の主要大学・研究機関との研究交流・学生交流を進展させることを目的として開催している国際学術交流事業である。平

(大学名：北海道大学)

成 12 年に第 1 回を開催して以来、世界中でおおよそ 2 年に一度開催されており、本年度は第 9 回のフォーラムをチリ・サンチャゴ及びブラジル・サンパウロで開催する予定である。本フォーラムでは、講演、シンポジウム等を通して、本学の最先端の研究結果を広く社会に紹介すると同時に、研究者および学生が、国の垣根を越えて活発に議論を展開する貴重な機会となっている。

【ファカルティ・ディベロップメント】

「東京大学のファカルティ・ディベロップメント (FD) の基本方針」を策定し、ファカルティ・ハンドブックの作成や FD 専用 Web サイトの構築を通して、学内における国際教育の現状やリソースに関する情報の提供、国内外での好事例の紹介などを行っている。

【事務体制の国際化及び職員の養成】

平成 22 年 4 月 1 日に、学内国際関係部門を統合・再編成し、国際本部を設置した。国際本部には、国際センター・日本語教育センターが附属し、より統一的・網羅的なサービスが各キャンパスで提供でき、また、戦略的な国際化計画が推進できる体制となった。

この国際本部あるいは各部局担当に配置する人材の養成のため、文部科学省の実施する「国際教育交流担当職員長期研修プログラム」、日本学術振興会の実施する「国際学術交流研修」、中国政府奨学金留学生等の海外派遣プログラム、本学が独自に実施している海外研修（長期・短期）に事務職員・技術職員を積極的に派遣してきた。平成 25 年度には、短期研修の新たなメニューとしてシンガポール国立大学への実務研修派遣（1 週間程度）を実施する予定である。また、職員全体の底上げのため、毎年、新規採用職員のための集中的英語研修を開催するとともに、語学学校での英語自己啓発支援についても継続的に実施している。

【農学生命科学研究科・獣医学専攻】

農学生命科学研究科・獣医学専攻では、タイ国カセサート大学獣医学部と学部間協定を結び、平成 16 年より学部学生の相互交流を開始した。毎年秋に東京大学の学生がカセサート大学キャンペン・キャンパスで 10 日間、野生動物獣医学、肉用動物獣医学、水棲動物医学などの講義・実習を受講し、また、春にはカセサート大学の学生が東京大学で 10 日間、基礎獣医学、伴侶動物獣医学、獣医公衆衛生学の講義・実習を受講している。これらの授業はすべて英語で行われている。毎年、それぞれ 5 名から 10 名の学生が派遣されている。

この学生交流事業は平成 25 年度の日本学生支援機構 (JASSO) の留学生交流支援制度プログラムとして採択されたが、短期派遣プログラムであり、単位認定もそれぞれの大学で独自に行っている。したがって、このプログラムは本申請事業のパイロット事業と位置づけられる。

国際交流協定等について【国内連携大学数に応じたページ数】

※想定される派遣先大学との国際交流協定締結文書等がある場合、下表に記入の上、写しを添付してください。

(i) 申請大学【大学名:北海道大学】

	国名	大学名	添付「写し」の枚数
①	タイ	カセサート大学	2
②	タイ	チュラロンコン大学	4
③			
④			
⑤			
⑥			
⑦			
⑧			
⑨			
⑩			
⑪			
⑫			
⑬			
⑭			
⑮			

(ii) 国内連携大学【大学名:酪農学園大学】

	国名	大学名	添付「写し」の枚数
①	なし		
②			
③			
④			
⑤			
⑥			
⑦			
⑧			
⑨			
⑩			
⑪			
⑫			
⑬			
⑭			
⑮			

(大学名:北海道大学)

様式 10

国際交流協定等について 【国内連携大学数に応じたページ数】

※想定される派遣先大学との国際交流協定締結文書等がある場合、下表に記入の上、写しを添付してください。

(ii)国内連携大学【大学名:東京大学】

	国名	大学名	添付「写し」の枚数
①	タイ	カセサート大学	12
②			
③			
④			
⑤			
⑥			
⑦			
⑧			
⑨			
⑩			
⑪			
⑫			
⑬			
⑭			
⑮			

(大学名:北海道大学)

参考データ【国内の大学1校につき、①～③は枠内に記入、④及び⑤はそれぞれ2ページ以内】

※人数等の算定にあたっては、原則として「学校基本調査」による定義に基づいて記入してください。

大学名 北海道大学

①大学全体における出身国別の留学生の受入総数(平成25年5月1日現在)
及び各出身国(地域)別の平成24年度の留学生受入人数

※ここでの「留学生」とは、「出入国管理及び難民認定法」別表1に定める「留学」の在留資格を有する者に限ります。

※平成24年度の留学生受入人数は、平成24年4月1日～平成25年3月31日の出身国(地域)別受入人数を記入してください。

※ここでの「全学生数」とは、日本人学生及び外国人留学生を含めた大学全体の平成25年5月1日現在の在籍者数を記入してください。

順位	出身国(地域)	受入総数	平成24年度 受入人数
1	中国	112	115
2	韓国	77	36
3	台湾	11	7
4	アメリカ合衆国	8	7
5	マレーシア	7	0
6	ナイジェリア	5	5
7	フィンランド	5	5
8	インドネシア	4	7
9	ブラジル	4	3
10	タイ	3	9
その他 (上記10カ国以外)	(主な国名) フランス	21	15
留学生の受入人数の合計		257	209
全学生数		11394	
留学生比率		2.3%	

②平成24年度中に留学した日本人学生数及び派遣先大学合計校数

※教育又は研究等を目的として、平成24年度中(平成24年4月1日から平成25年3月31日まで)に海外の大学等(海外に所在する日本の大学等の分校は除く。)に留学した日本人学生について記入してください。
なお、平成24年3月31日以前から継続して留学している者は含みません。

順位	派遣先大学の所在国 (地域)	派遣先大学名	平成24年度 派遣人数
1	タイ	タマサート大学	5
2	台湾	国立台湾大学	4
2	フィンランド	オウル大学	4
4	アメリカ合衆国	ウイスコンシン大学マジソン校	3
4	ロシア	モスクワ国立大学	3
6	アメリカ合衆国	オハイオ州立大学	2
6	アメリカ合衆国	ハワイ大学ヒロ校	2
6	韓国	高麗大学校	2
6	スイス	スイス連邦工科大学	2
6	ハンガリー	ブタペスト工科経済大学	2
その他 (上記10校以外)	(主な国名) スウェーデン 計 9 カ国	(主な大学名) イェテボリ大学 計 15 校	20
派遣先大学合計校数		25	
派遣人数の合計			49

(大学名:北海道大学)

大学名		北海道大学					
③大学全体における外国人教員数(兼務者を含む)(平成25年5月1日現在)							
※「全教員数」には大学に在籍する日本人教員も含めた全教員数を記入してください。							
※「うち専任教員(本務者)数」には教授、准教授、講師、助教、助手の専任の外国人教員の数をそれぞれ記入してください。(いずれにも当てはまらない場合には、「助手」に含めてください。)							
全教員数	外国人教員数						外国人教員の比率
	教授	准教授	講師	助教	助手	合計	
2375	14	29	6	44	1	94	4%
うち専任教員 (本務者)数	14	29	6	44	1	94	

(大学名:北海道大学)

大学名	北海道大学
④「様式9」で記入した実績を示すデータや資料等を取りまとめ、出典を付して記入又は貼付してください。【2ページ以内】	
<p>記載事項を示すデータや資料は以下のウェブサイトを確認できる。 ※以下に記載の根拠URLのうち、平成24年事業年度に係る業務の実績に関する報告書については、北海道大学学内限定資料であるため、外部からは参照ができない。</p>	
<p>1) 国際的教育環境の構築</p> <p>▼英語による授業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語母語話者教師団（全部局のバイリンガル教師のネットワーク）を新たに設置等（新渡戸カレッジ構想調書 30ページ目様式3 教員のグローバル教育力の向上の取組） <p>http://www.jsps.go.jp/j-gjinzai/data/shinsa/h24/gjinzai_chousho_a01.pdf</p> <p>▼ダブルディグリープログラム（DDP）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワーキンググループの設置 <p>http://www.jsps.go.jp/j-bilat/u-kokusen/useful/pdf/hokkaido090324.pdf</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダブルディグリープログラム実施に向けた手引き <p>http://www.hokudai.ac.jp/international3/internationalization/rules/doubledegree/</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダブルディグリーを構築または実施する部局に対する支援（平成25年度年度計画 3ページ目 I 3 (2)) <p>http://www.hokudai.ac.jp/pr/johokokai/pub/22jo/work/nendo-25.pdf</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北海道大学の学生として初めてのダブルディグリープログラム修了者輩出 <p>http://www.eng.hokudai.ac.jp/commonfile/pdf/e395.pdf</p> <p>2) 海外の有力大学との実質的交流の継続実績</p> <p>▼ソウル大学とのジョイントシンポジウム</p> <p>http://www.hokudai.ac.jp/international3/internationalization/academicexchanges/jointsymposium/</p> <p>▼アジア-太平洋地域の大学院教育コンソーシアムProSPER.Net</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際コンソーシアムへの参加 北海道大学ホームページ <p>http://www.hokudai.ac.jp/international3/internationalization/consortium/</p> <p>http://www.hokudai.ac.jp/international3/internationalization/consortium/prospernet/</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ProSPER.Net での実績 <p>http://www.sustain.hokudai.ac.jp/huisd/jp/activity/509</p> <p>http://www.ias.unu.edu/sub_page.aspx?catID=108&ddlID=697</p> <p>▼University of the Arctic (UArctic、北極圏大学) への加盟</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際コンソーシアムへの参加 北海道大学ホームページ <p>http://www.hokudai.ac.jp/international3/internationalization/consortium/</p> <p>http://www.hokudai.ac.jp/international3/internationalization/consortium/arctic/</p> <ul style="list-style-type: none"> ・UArcticホームページ（加盟数） <p>http://www.uarctic.org/Frontpage.aspx?m=3</p> <p>▼ASEAN諸国との大学院共同教育プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口・活動・資源・環境の負の連関を転換させるフロンティア人材プログラム構想調書 <p>http://www.jsps.go.jp/j-tenkairyoku/data/shinsa/h24/tenkai_chousho_a01.pdf</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成24年度受入学生人数 <p>（平成24年事業年度に係る業務の実績に関する報告書 教育研究等の質向上に関する特記事項7ページ目）</p> <p>https://enreiso2.oicte.hokudai.ac.jp/rpssso/system0030/index.php</p>	

3) 国際化への対応

▼外国人教員の採用（外国人教員の雇用に係るインセンティブ付与）

（平成 23 事業年度に係る業務の実績に関する報告書 13ページ、17ページ）

<http://www.hokudai.ac.jp/pr/tenken/hyouka/houjin/2nd/h23/23jisseki.pdf>

▼教員の資質向上への取り組み

・FDワークショップ実施実績等

（平成25年度年度計画 1ページ目 I 1 (2) 次世代FD、新任教員向けFD研修の実施）

<http://www.hokudai.ac.jp/pr/johokokai/pub/22jo/work/nendo-25.pdf>

（平成23事業年度に係る業務の実績に関する報告書 6ページ目 授業改善のための次世代FDプログラム）

http://www.hokudai.ac.jp/pr/tenken/hyouka/houjin/2nd/h23/23jisseki_gakunai.pdf

（各学部，研究科等のFD・TA研修実施状況（H24年度））

<http://socyo.high.hokudai.ac.jp/AllFD/AllFD2012.htm>

・オープンコースウェアでのFD研修

<http://ocw.hokudai.ac.jp/Materials/HokudaiFD/>

・「次世代FDの研究」報告書

<http://socyo.high.hokudai.ac.jp/jisedai.pdf>

・北海道地区FD・SD推進協議会ホームページ

<http://fdsd.high.hokudai.ac.jp/>

4) 事務体制の国際化

▼英語のできる国際担当職員の配置実績

・国際本部の設置

<http://www.hokudai.ac.jp/international3/internationalization/oia/gm/>

▼語学等に関する職員の研修プログラム

・語学研修

（平成23事業年度に係る業務の実績に関する報告書 30ページ目事務職員の能力及び資質を向上させるため，SDを充実させる）

<http://www.hokudai.ac.jp/pr/tenken/hyouka/houjin/2nd/h23/23jisseki.pdf>

（平成24年事業年度に係る業務の実績に関する報告書 業務運営の改善及び効率化に関する特記事項 1及び11ページ目 事務職員の国際化に向けた取組）

<https://enreiso2.oicte.hokudai.ac.jp/rpssso/system0030/index.php>

・自己研鑽

（教職員向け）

<http://www.hokudai.ac.jp/jimuk/gakunai/ikusei/index.html>

5) 単位の実質化への取り組み

▼GPA制度の実施、履修登録単位数の上限設定

<http://educate.academic.hokudai.ac.jp/center/zengaku24.htm>

<http://educate.academic.hokudai.ac.jp/center/qanda23k.pdf>

▼シラバスコンクールについて

<http://educate.academic.hokudai.ac.jp/syllabus/syllabus2012/top.pdf>

▼ナンバリング制度導入

（平成25年度年度計画 1ページ目 I 1 (1) ）

<http://www.hokudai.ac.jp/pr/johokokai/pub/22jo/work/nendo-25.pdf>

▼GPA等に基づく厳格な卒業認定基準導入

（平成24年事業年度に係る業務の実績に関する報告書 教育研究等の質向上に関する特記事項11ページ目）

<https://enreiso2.oicte.hokudai.ac.jp/rpssso/system0030/index.php>

大学名	北海道大学
-----	-------

⑤他の公的資金との重複状況【2ページ以内】
 ※当該申請大学において、今回申請している内容以外に、文部科学省が行っている国際化拠点整備事業費補助金、大学改革推進等補助金、研究拠点形成費等補助金等、又は独立行政法人日本学術振興会が行っている国際交流事業の補助金等による経費措置を受けている取組がある場合、また、現在申請を予定している取組(博士課程教育リーディングプログラム等)がある場合は、それらの事業名称及び取組内容について、1事業につき3～4行程度を目安に記入してください。その中で、今回の申請内容と類似しているものがある場合には、その相違点についても言及してください。
 また、独立行政法人日本学生支援機構平成25年度留学生交流支援制度(短期派遣)に採択されたプログラムがある場合には、本事業の申請内容との関連について必ず明記してください。

本構想は、文科省の国際化拠点整備事業費補助金、大学改革推進等補助金、研究拠点形成費等補助金等、日本学術振興会が行っている国際交流事業の補助金等又は日本学生支援機構の留学生交流支援制度(短期派遣)、いずれの経費措置も受けていない。上の補助金等による取組みとして代表的なものを以下に列挙し、必要な取組みについては相違点を記述する。

▼研究拠点形成費等補助金

- グローバルCOEプログラム
 - ・境界研究の拠点形成(採択:平成21年度)
- 卓越した大学院拠点形成支援補助金
 - ・知の創出を支える次世代IT基盤拠点(大学院情報研究科)(採択:平成24年度)
 - ・大学院文学研究科 人間システム科学専攻(採択:平成24年度)
 - ・大学院医学研究科 医学専攻(採択:平成24年度)
- 博士課程教育リーディングプログラム

専門分野の枠を超えて博士課程前期・後期一貫した世界に通用する質の保証された学位プログラムを構築・展開する大学院教育の抜本的改革を支援し、大学院の形成を推進する事業。以下の取組のうち、上から1及び2番目の取組みについては、本学獣医学研究科が参加しており、プログラムには、学生の海外演習等も含まれているが、本事業は大学院学生を対象としており、ASEANとの学部学生レベルの教育連携を行う取組みではない。

 - ・One Healthに貢献する獣医科学グローバルリーダー育成プログラム(リーディング大学院構築事業費)(採択年度:平成23年度)

大学院獣医学研究科に人獣共通感染症対策専門家養成コースとケミカルハザード対策専門家養成コースを設置し、各分野の専門性に加えて、問題の全体像を俯瞰できる総合力をもって当該分野の教育研究の推進および対策にリーダーシップを発揮できる人材を育成するための大学院教育を行う取組み。

 - ・新渡戸スクールサステイナビリティ・フロンティア開拓院(申請年度:平成25年度)

オール北大体制として、「サステイナビリティ・フロンティア開拓院」を設置し、持続可能な社会構築の最前線における、実践的カリキュラムを中心に据えた教育プログラム「新渡戸スクール」を実施し、持続可能な社会構築の最前線で活躍するリーダーを育成する。

 - ・物質科学フロンティアを開拓するAmbitiousリーダー育成プログラム(申請年度:平成25年度)
 - ・メディカルサイバーアース技術革新リーダー養成プログラム(申請年度:平成25年度)
 - ・戦略的グローバルモニタリングリーダー育成プログラム(申請年度:平成25年度)
- がんプロフェッショナル養成基盤推進事業
 - ・北海道がん医療を担う医療人養成プログラム(採択年度:平成24年度、代表校:札幌医科大学)

▼大学改革推進等補助金

- 大学間連携共同教育推進事業
 - ・教学評価体制(IRネットワーク)による学士課程教育の質の保証(採択年度:平成24年度)
 - ・難病対策イノベーション推進人材養成事業(申請年度:平成25年度)
 - ・北海道アカデミック総合診療医養成事業～北海道大学と地域ネットワークによる総合診療医学の推進～(申請年度:平成25年度)

▼国際化拠点整備事業費補助金

- 大学の世界展開力強化事業
 - ・人口・活動・資源・環境の負の連鎖を転換させるフロンティア人材育成プログラム(採択年度:平成24年度)

ASEAN地域の大学と大学院教育コンソーシアムを形成し、大学院修士課程学生の派遣及び受入を行うことで、フロンティア人材を育成する教育プログラム。本プログラムは修士課程学生が対象であり、また、本学獣医学部は参加しておらず、獣医師や獣医学研究者等を育成する取組みではない。

●グローバル人材育成事業

- ・新渡戸カレッジの創設（採択年度：平成24年度）

北海道大学の全学部の中から選抜された学部生に、海外留学を義務付け、特別な教育プログラム等を実施し、国際社会の中で日本人としての自覚をもって生き抜くリーダーとして育成する教育プログラム。本プログラムはASEANとの教育連携ではなく、獣医師や獣医学研究者等の育成を目標とするプログラムではない。

▼国立大学改革強化推進補助金

●国立大学改革強化推進事業

- ・北海道内国立大学の機能強化について～北大を拠点とする連携体制の構築～

（採択年度：平成24年度）

- ・国立獣医系4大学群による欧米水準の獣医学教育実施に受けた連携体制の構築

（代表校：帯広畜産大学、採択年度：平成24年度）

国際的・社会的にリーダーとして活躍する獣医師の養成，我が国獣医学教育の水準の向上という観点から，2つの共同獣医学教育課程の一層の高度化に取組み，北日本と南日本の地域特性を活かした教育プログラムの開発と相互利用，国際認証の取得に向けた戦略的連携を推進するとともに，これを礎に，獣医学教育改革を先導する取組み。本プログラムは日本の獣医学教育の改革を推進するプログラムであり，ASEANとの教育連携ではない。

▼頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム（日本学術振興会）

国際共同研究において、相手側の機関等に若手研究者を長期派遣し、若手研究者の育成をはかる事業。本学で採択となった以下2件の取組みは、ともにASEANとの教育連携ではなく、獣医師や獣医学研究者等の育成を目標とするものでもない。

- ・複合的なアプローチによる生物源炭酸塩骨格を用いた地球環境変動の解明

（採択年度：平成23年度）

- ・物質変換と機能創出に関わる化学を担う若手研究者海外派遣プログラム

（採択年度：平成24年度）

▼研究拠点形成事業（B. アジア・アフリカ学術基盤形成型）（日本学術振興会）

我が国と各国の研究教育拠点機関との持続的な協力関係を確立し、世界的水準または地域における中核的な研究交流拠点を構築するとともに、次世代を担う若手研究者の育成を目的とする事業。以下の取組みは、アフリカで進行する環境汚染に対応する為の「国際コンソーシアム」を形成することを目標としており、①環境の汚染源とその拡散様式、動物・ヒトへの影響に関する分析や汚染低減のための技術開発を行い、②環境毒性学の人材を育成するための研修プログラムを実施し、③各国間での情報を共有するためのシンポジウムと情報公開機構の設置により、環境の健康性と食の安全の確保に関するプログラムを推進するものであり、ASEANとの教育連携ではない。

- ・アフリカ8カ国との国際トキシコロジー・コンソーシアムの形成（採択年度：平成24年度）

▼日本学生支援機構平成25年度留学生交流支援制度（短期派遣） 7件採択

以下のプログラム等はいずれも本構想との関連はない。

- ・中国圏の大学との法学学生交流プログラム（短期派遣）

- ・国際ネットワークにもとづく学生短期派遣型フィールド環境科学の次世代育成プログラム

- ・農学の国際性涵養のための先鞭教育プログラム

- ・ESDキャンパスアジアプロジェクト

- ・研究プロジェクト参加型国際インターンシッププログラム

- ・国際協働によるサマー・インテンシブ・プログラム「自然環境と共に生きる～地震・津波に対する解析・設計・評価技術」

- ・ファースト・ステップ・プログラム

（大学名：北海道大学）

参考データ【国内の大学1校につき、①～③は枠内に記入、④及び⑤はそれぞれ2ページ以内】

※人数等の算定にあたっては、原則として「学校基本調査」による定義に基づいて記入してください。

大学名 酪農学園大学

①大学全体における出身国別の留学生の受入総数(平成25年5月1日現在)
及び各出身国(地域)別の平成24年度の留学生受入人数

※ここでの「留学生」とは、「出入国管理及び難民認定法」別表1に定める「留学」の在留資格を有する者に限ります。

※平成24年度の留学生受入人数は、平成24年4月1日～平成25年3月31日の出身国(地域)別受入人数を記入してください。

※ここでの「全学生数」とは、日本人学生及び外国人留学生を含めた大学全体の平成25年5月1日現在の在籍者数を記入してください。

順位	出身国(地域)	受入総数	平成24年度 受入人数
1			0
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
その他 (上記10カ国以外)	(主な国名)		
留学生の受入人数の合計		0	0
全学生数		3,450	
留学生比率		0.0%	

②平成24年度中に留学した日本人学生数及び派遣先大学合計校数

※教育又は研究等を目的として、平成24年度中(平成24年4月1日から平成25年3月31日まで)に海外の大学等(海外に所在する日本の大学等の分校は除く。)に留学した日本人学生について記入してください。

なお、平成24年3月31日以前から継続して留学している者は含みません。

順位	派遣先大学の所在国 (地域)	派遣先大学名	平成24年度 派遣人数
1			0
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
その他 (上記10校以外)	(主な国名) 計 力国	(主な大学名) 計 校	
派遣先大学合計校数		0	
派遣人数の合計			0

(大学名:北海道大学)

大学名	酪農学園大学						
③大学全体における外国人教員数(兼務者を含む)(平成25年5月1日現在)							
※「全教員数」には大学に在籍する日本人教員も含めた全教員数を記入してください。							
※「うち専任教員(本務者)数」には教授、准教授、講師、助教、助手の専任の外国人教員の数をそれぞれ記入してください。(いずれにも当てはまらない場合には、「助手」に含めてください。)							
全教員数	外国人教員数						外国人教員の比率
	教授	准教授	講師	助教	助手	合計	
262	4	2	1	0	0	7	3%
うち専任教員 (本務者)数	0	1	0	0	0	1	

(大学名:北海道大学)

大学名	酪農学園大学
-----	--------

④「様式9」で記入した実績を示すデータや資料等を取りまとめ、出典を付して記入又は貼付してください。【2ページ以内】

1) 海外経験の豊富な教員の採用とゼミでの完全英語化や英語による研究発表、英語による講義の試み

英語による専門講義の試み



能田 淳 准教授

カルフォルニア大学デービス校卒業
ヨータポリ大学大学院博士課程終了

環境衛生学
インドのヒ素の地下水汚染問題
南極や流氷中の薬剤耐性菌調査



Shimada 浩平 准教授

日本獣医畜産大学獣医学部卒業
エジンバラ大学大学院博士課程終了

獣疫疫学
ケニアの国際家畜研究所と共同研究
乳の流通における衛生管理

出典：2013年度酪農学園大学入試相談会説明資料

2) 海外の16カ国33機関と学術協定を締結



(大学名：北海道大学)

大学名	酪農学園大学
<p>⑤他の公的資金との重複状況【2ページ以内】</p> <p>※当該申請大学において、今回申請している内容以外に、文部科学省が行っている国際化拠点整備事業費補助金、大学改革推進等補助金、研究拠点形成費等補助金等、又は独立行政法人日本学術振興会が行っている国際交流事業の補助金等による経費措置を受けている取組がある場合、また、現在申請を予定している取組(博士課程教育リーディングプログラム等)がある場合は、それらの事業名称及び取組内容について、1事業につき3～4行程度を目安に記入してください。その中で、今回の申請内容と類似しているものがある場合には、その相違点についても言及してください。</p> <p>また、独立行政法人日本学生支援機構平成25年度留学生交流支援制度(短期派遣)に採択されたプログラムがある場合には、本事業の申請内容との関連について必ず明記してください。</p>	
<p>大学改革推進事業 口蹄疫等家畜伝染病に対応した獣医師育成環境の整備事業 産業動物診療分野における全国的臨床教育環境の整備 日本人学生が対象</p>	

(大学名:北海道大学)

参考データ【国内の大学1校につき、①～③は枠内に記入、④及び⑤はそれぞれ2ページ以内】

※人数等の算定にあたっては、原則として「学校基本調査」による定義に基づいて記入してください。

大学名 東京大学

①大学全体における出身国別の留学生の受入総数(平成25年5月1日現在)
及び各出身国(地域)別の平成24年度の留学生受入人数※ここでの「留学生」とは、「出入国管理及び難民認定法」別表1に定める「留学」の在留資格を有する者に限りま
す。※平成24年度の留学生受入人数は、平成24年4月1日～平成25年3月31日の出身国(地域)別受入人数を記入
してください。※ここでの「全学生数」とは、日本人学生及び外国人留学生を含めた大学全体の平成25年5月1日現在の在籍
者数を記入してください。

順位	出身国(地域)	受入総数	平成24年度 受入人数
1	中国	80	38
2	韓国	69	22
3	タイ	16	6
4	シンガポール	15	8
5	ベトナム	11	4
6	モンゴル	7	1
7	インドネシア	5	2
8	マレーシア	5	0
9	オーストラリア	4	4
10	スウェーデン	4	3
その他 (上記10カ国以外)	(主な国名) ドイツ	41	27
留学生の受入人数の合計		257	115
全学生数		14159	
留学生比率		1.8%	

②平成24年度中に留学した日本人学生数及び派遣先大学合計校数

※教育又は研究等を目的として、平成24年度中(平成24年4月1日から平成25年3月31日まで)に海外の大
学等(海外に所在する日本の大学等の分校は除く。)に留学した日本人学生について記入してください。

なお、平成24年3月31日以前から継続して留学している者は含みません。

順位	派遣先大学の所在国 (地域)	派遣先大学名	平成24年度 派遣人数
1	アメリカ	カリフォルニア工科大学	19
2	アメリカ	イエール大学	17
3	インド	インド工科大学ハイデラバード校	17
4	台湾	国立台湾大学	15
5	中国	南京大学	15
6	ベトナム	カントー大学	14
7	アメリカ	カリフォルニア大学パークレー校	11
8	アメリカ	プリンストン大学	10
9	アメリカ	マサチューセッツ工科大学	9
10	デンマーク	コペンハーゲン大学	8
その他 (上記10校以外)	(主な国名) イギリス、フランス、カナダ 計 23 カ国	(主な大学名) 北京、スウェーデン王立工科 計 80 校	165
派遣先大学合計校数		90	
派遣人数の合計			300

(大学名:北海道大学)

大学名	東京大学						
③大学全体における外国人教員数(兼務者を含む)(平成25年5月1日現在)							
※「全教員数」には大学に在籍する日本人教員も含めた全教員数を記入してください。							
※「うち専任教員(本務者)数」には教授、准教授、講師、助教、助手の専任の外国人教員の数をそれぞれ記入してください。(いずれにも当てはまらない場合には、「助手」に含めてください。)							
全教員数	外国人教員数						外国人教員の比率
	教授	准教授	講師	助教	助手	合計	
3793	13	46	11	28	0	98	3%
うち専任教員(本務者)数	13	46	11	28	0	98	

(大学名:北海道大学)

大学名	東京大学
④「様式9」で記入した実績を示すデータや資料等を取りまとめ、出典を付して記入又は貼付してください。【2ページ以内】	
<p>【東京大学憲章】 平成15年3月18日に制定された、本学の長期的視点からの大学運営の基本原則である。 http://www.u-tokyo.ac.jp/gen02/b04_j.html</p> <p>【東京大学の行動シナリオ】 東京大学は、平成16年度の法人化に先立って上記の「東京大学憲章」を制定し、長期的視点に立って大学運営の基本原則を明らかにした。そして、第1期中期目標・計画及び「アクション・プラン2005-2008」に基づいて、多面にわたる主体的な取り組みを行ってきた。この『行動シナリオ』は、これらの成果を踏まえ、理念を継承して、それらをさらに確実なものとしていくために実行されるものである。 同じく平成22年度に始まる第2期中期目標・計画は、『行動シナリオ』を展開する基盤であり、両者相まって、東京大学の運営の基本姿勢を社会に示すものとなっている。 http://www.u-tokyo.ac.jp/scenario/pdf/2013action_scenario_c_all.pdf</p> <p>【東京大学国際化推進長期構想】 「東京大学国際化推進長期構想」は、東京大学が平成22年度から32年度までの11年間に全学を挙げて取り組むべき国際化推進のための重点施策と達成目標を取りまとめたものである。 http://www.u-tokyo.ac.jp/res02/pdf/longtermplan.pdf</p> <p>【中期目標・中期計画】 本学の中期目標・中期計画は以下のウェブサイトにて公開している。 http://www.u-tokyo.ac.jp/gen02/b05_j.html</p> <p>【英語のみで学位取得が可能なコースの整備及び公開等】 標記に関する本学での取り組みについては以下のウェブサイトにて公開している。 http://www.uni.international.mext.go.jp/university_list/tokyo http://dir.u-tokyo.ac.jp/ICE/</p> <p>【ダブルディグリープログラム】 本学でのダブルディグリープログラムについては以下のウェブサイトにて情報を公開している。 http://www.pp.u-tokyo.ac.jp/international/intl-collaboration.htm</p> <p>【国際的ネットワークへの参加等】 本学が参加する大学間ネットワークの概要については以下のウェブサイトにて概要を公開している。 http://dir.u-tokyo.ac.jp/kokusai/dainet.html (IARU, APRU, AEARU, BESETOHA)</p> <p>【知の共有化 (Network of Networks)】 以下のプロジェクトのウェブサイトにて、ネットワークを可視化するツールについても公開している。 http://nns-u.org/index.html</p> <p>【東大フォーラム】 東大フォーラム (旧称 UT Forum) は、前述のとおり、本学の優れた学術研究成果を世界に発信し、海外の主要大学・研究機関との研究交流・学生交流を進展させることを目的として開催している。今年度は、チリ・サンチャゴ及びブラジル・サンパウロにて開催が予定されている。 http://forum.dir.u-tokyo.ac.jp/ http://dir.u-tokyo.ac.jp/kokusai/utforum.html (これまでのフォーラムの概要)</p> <p>【ファカルティ・ディベロップメント】 FD専用ウェブサイトにおいて、「東京大学のファカルティ・ディベロップメント (FD) の基本方針」や国内外の好事例を紹介している。 http://www.todaifd.com/</p> <p>【事務体制の国際化及び職員の養成】 東京大学国際本部のウェブサイト http://www.u-tokyo.ac.jp/index/d03_j.html</p>	

(大学名: 北海道大学)

大学名	東京大学
<p>⑤他の公的資金との重複状況【2ページ以内】 ※当該申請大学において、今回申請している内容以外に、文部科学省が行っている国際化拠点整備事業費補助金、大学改革推進等補助金、研究拠点形成費等補助金等、又は独立行政法人日本学生術振興会が行っている国際交流事業の補助金等による経費措置を受けている取組がある場合、また、現在申請を予定している取組(博士課程教育リーディングプログラム等)がある場合は、それらの事業名称及び取組内容について、1事業につき3～4行程度を目安に記入してください。その中で、今回の申請内容と類似しているものがある場合には、その相違点についても言及してください。 また、独立行政法人日本学生支援機構平成25年度留学生交流支援制度(短期派遣)に採択されたプログラムがある場合には、本事業の申請内容との関連について必ず明記してください。</p>	
<p>本学が受けている主な他の公的資金は以下のとおりである。</p> <p>【国際化拠点整備事業費補助金】 1. 大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業(グローバル30) グローバル30では、入学から卒業(修了)まで英語により授業を受けられる体制の整備等を進めている。これまでに40の英語のみにより学位が取得できるコースが設置されている。 2. 大学の世界展開力強化事業 (1) (2)は、ASEAN地域との連携を目指したものではない。(3)は大学院での交流を対象としているほか、対象とする分野が都市工学・国際保健学であり、本申請とは異なっている。 (1) キャンパス・アジア中核拠点支援 (H23 タイプA-I) 「公共政策・国際関係分野におけるBESETOダブル・ディグリーマスタープログラム」北京大学、ソウル大学校、東京大学3大学 (BESETO) の間のコンソーシアム。 (2) 米国大学等との協働教育創成支援 (H23 タイプB-I) 「巨大複雑システム統括エンジニア育成に向けた国際協働教育プログラムの創出」 工学教育・研究のトップに位置するマサチューセッツ工科大学 (MIT)、カリフォルニア大学バークレー校 (UCB)、イペリアレッジロッドン (ICL)、スイス連邦工科大学 (ETH)、スウェーデン王立工科大学 (KTH)、フランスグランゼコールのトップ5校の連合体の形成。 (3) H24 アジア都市保健学際コンソーシアムの形成 タイ・インドネシアの6大学と連携し、英語による高いコミュニケーション能力と、データ分析能力・問題解決力を兼ね備えた、人材都市環境工学を専門として保健医学の基礎的な知識を身に付けた人材と、保健医学を専門として都市環境工学的な知識を身につけた人材を養成する。</p> <p>【大学改革推進等補助金】 ・博士課程教育リーディングプログラム 本学の採択課題は以下のとおりである。 平成23年度 「サステナビリティ学グローバルリーダー養成大学院プログラム」サステナビリティ学や持続可能な開発分野の発展に貢献し、将来リーダーシップを発揮することができるグローバルな人材を育成する。 「ライフイノベーションを先導するリーダー養成プログラム」ライフイノベーションに関わる世界的にみても優れた教育・研究資源を統合し、基礎から臨床、医薬品から医療機器まで、ライフイノベーションを支える多様かつ複雑な局面においてリーダーシップを発揮しうる人材を育成する。 「フォトンサイエンス・リーディング大学院」基礎科学の最先端研究の場を、最先端フォトンサイエンスを横串として活用することで、分野を越えた俯瞰力と知を活用する力を身につけ、世界を舞台として人類社会の持続的発展に貢献する博士を育成する。 平成24年度 「統合物質科学リーダー養成プログラム」最先端の物質科学研究を基盤として、分野を越えた俯瞰力と柔軟性、知を創造し活用する力、広い視野と高い倫理性を併せ持ち、社会の持続的発展に貢献する博士を育成する。 「ソーシャルICT グローバル・クリエイティブリーダー育成プログラム」、ビッグデータ、複雑システム、ヒューマンシステムの先端ICTを基軸とし、複数専門分野を統合して、社会の喫緊の課題を解決し、あるいは新たな価値をもたらす知識社会経済システムを創造的にデザインし、社会イノベーションを先導するトップリーダーを育成する。 「数物フロンティア・リーディング大学院」先端数学のトレーニングと研究活動を確固たるアイデンティティとし、既存の分野にとらわれず広い視野を持ち、数学力を発揮できる博士人材を育成する。 また、現在下記の3件を申請中である。 「社会構想マネジメントを先導するグローバルリーダー養成プログラム」：類型は「オールラウンド型」、プログラムコーディネーターは城山英明(法学政治学研究科)。 「多文化共生・統合人間学プログラム」：類型は「複合領域型(多文化共生社会)」、プログラムコーディネーターは内野儀(総合文化研究科)。 「活力ある超高齢社会を共創するグローバル・リーダー養成プログラム」：類型は「複合領域型(横断的テーマ)」、プログラムコーディネーターは大方潤一郎(工学系研究科)。</p>	

【研究拠点形成費等補助金】

1. がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン「がん治療のブレイクスルーを担う医療人育成」研究者養成に重点を置く東京大学と教育改革や地域医療を推進する横浜市立大学・東邦大学・自治医科大学が連携することによって、最先端研究とがんの実地医療の両方に力を注ぎ、広い視点からがん医療を先導し改革することのできる医療人を育成する。
2. グローバルCOEプログラム「ゲノム情報ビッグバンから読み解く生命圏」ゲノム情報ビッグバン革命のなか、時代を先取りした情報生物学教育を幅広く展開し、世界トップレベルの教育研究拠点を形成する。

【若手研究者戦略的海外派遣事業費補助金】

・頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム（日本学術振興会）「海洋生態系における新しい光エネルギーフローモデルの創出」
遺伝子情報解析技術の国際共同研究ネットワークを構築するために、担当研究者がMITの研究室に派遣されている。

【卓越した大学院拠点形成支援補助金】

「我が国の学術研究を格段に発展させる研究者を一定数以上擁し優れた研究基盤を有する博士課程の専攻等」を擁する大学として認定され、平成24年度には、1,612,299千円の交付決定を受けた。平成25年度分は現在申請中である。

【国際研究拠点形成促進事業費補助金】

・世界トップレベル研究拠点プログラム（WPI）「カブリ数物連携宇宙研究機構（Kavli IPMU）」
数学、物理学、天文学における世界トップクラスの研究者の連携によって暗黒エネルギー、暗黒物質、統一理論（超弦理論や量子重力）の研究を進めている。

【平成25年度留学生交流支援制度（短期派遣）】

平成25年度は以下のプログラムが採択されている。

・タイにおける熱帯獣医学研修コース
タイ国カセサート大学獣医学部との間で学部学生の短期間相互交流を行う。この事業は実際には平成26年度から実施される本申請事業のパイロット事業と位置づけられる。

このほか、以下のプログラムが採択されているが、いずれも本申請との関連はない。

北米有力校との全学交換留学派遣プログラム

Go-Global（全世界展開型）全学交換留学派遣プログラム

建築と都市に関する学生の国際交流プログラムAUSMIP（派遣）

カリフォルニア大学バークレー校派遣留学プログラム Institute of International Studies

International Study Program (IIS-ISP)

IARU Global Summer Program（派遣）

米国トップ大学（バークレー・イエール）夏季集中講義派遣プログラム

非英語圏短期留学派遣プログラム

英米大学語学+専門講義カスタマイズプログラム

香港を通じて理解するアジアと日本

グローバルな文脈で台湾を理解する：実践的フィールドワークへの誘い

イアエステのシステムを活用した国際インターンシップ派遣プログラム

グローバル機械工学人材交流プログラム (Exchange Program for Global Mechanical Engineers (GME))

公共政策大学院Global Public Policy Network (GPPN)海外協定校国際交流プログラム

(大学名:北海道大学)